

いろいろといろ
はち



なほ

この本は

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO8です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

三冊目 <http://p.booklog.jp/book/49689>

四冊目 <http://p.booklog.jp/book/51371>

五冊目 <http://p.booklog.jp/book/52955>

六冊目 <http://p.booklog.jp/book/54454>

七冊目 <http://p.booklog.jp/book/56264>

絶滅危惧種

またダメだった。ぐったりする生物を抱きしめる。

適度な水、栄養、温度だけではこの生物は育たない。

時々叱って、時々愛して、時々課題や仕事を与えて、生きる理由を準備する。

[#twnovel](#)

なんて生き物なの？

人間っていう絶滅危惧種なんだ。

そうねそんなの生きることには向いてないわ。

パラパラ

パラパラ漫画10頁目の絵が脱走した。

こんな中途半端な位置いやなの。

そう言って最後の頁へと収まる。

男女が出会って恋愛結婚出産をし自分達そっくりな子が生まれるって物語だけど、これじゃ。

[#twnovel](#)

別におかしくもないか。

逃げ出したのは結婚の頁。

出産の後に結婚なんてもう普通だった。

警備員

僕の心の警備員は女の子。

心の傷を小さな体で代わりに受ける。

身を挺して心を守るその姿に、僕が恋するのは自然なことだった。

[#twnovel](#)

「好きです」

告白に戸惑う彼女。

愚かな僕は伝えてから気づく。

NOと言われたなら僕の心はどうなるのか。

意を決し、彼女が命がけの答えを出す。

「私は」

恋

好きな人を打ち明ける君は可愛かった。

そんな恋は壊れてしまえ。壊れなければ恋は美しい永遠になる。

だから彼に壊されておいで。

知ってる。

彼に恋人がいることも、それでも君とキスすることも。

辛い恋に苦しむ君を何気ない素振りで慰めてあげる。

だから。

行ってらっしゃい、よい恋を。

[#twnovel](#)

人魚姫

はじめから知っていた。

君の恋が敗れる事もやがては泡になる事も。

運命に従いボクは君に、足をナイフを捧げた。

ボクの気持ちを君は知らない。

愛してるなんて一欠片だって伝わらない。

ボクはただの怖い魔女。

だからねえ、泡になってよ。

誰かのものになる君なんて見たくはないのだから。

#twnovel

ファスナー

僕の背中ファスナーを開けても誰も入っていないのに、みんなは入っているらしい。

本当の自分を探したい。

それって中の人を更新したいという事？

中身のない僕には解らない。

[#twnovel](#)

久しぶりの同窓会。

懐かしい友達に再会すると多くが姿を変えていた。

そうか。本当の自分を見つけたんだね。

鍋奉行

「そんな次々お手をつけて」

肉食女子の姫様は食べ放題やり放題。

未熟なものでもお構いなしかと思えば食べ頃を平気で放置する。

男相手なら幾らでも食い散らかせばいい。

鍋は別だ。アクもすくわず続けるなんて。

「あんた煮ても焼いても食えないわよね」

鍋姫と鍋奉行の熱い戦いが始まる。

[#twnovel](#)

憎き、あく。

何より疎ましいその存在。

けれど思う。

彼らは恥じているのではないか。

自らの末路を知りながら姿を表すのは、どうにもできない自分をすくって欲しいからではないか

。

だから、私はアクをすくう、ってああ！

[#twnovel](#)

「シメは灰汁とってから！」

鍋奉行には物思いに耽る暇すらない。

活字中毒

活字中毒の僕は図書館へ通う。

誰も読まない書架の上や禁持出からこっそり活字を頂戴する。

けれど最近気がついた。

僕より先に誰かが活字を奪ってる。

秘蔵の活字もある日ごっそり消えていた。

喰われた活字の数々から僕は見えないホシを推理する。

[#twnovel](#)

君への気持ちは、中毒に似ている。

黒魔女娘

人を上手に不幸にできない黒魔女の私。

白魔女になればと友達に言われた。

だけど私にだって、覚悟と誇りがあるんだから。

あら。あんなところにお姫様。

[#twnovel](#)

「足を下さい」「あげません」

人魚の願いを断ってやった。

悲しみの中姫は努力し、人魚のままで王子と結婚。

ああっ、私ってやつは。

人生の帰路

人生の別れ道で魔女に出会う。

「どっちがいい人生だ」「どちらと言えばこちらかな」

そちらは最悪の人生で、僕は別れ道へと戻る。

「嘘つき」「嘘じゃない」

言い切られるともう一方の道も怖くて足を踏み出せない。

魔女は囁く。

「道を行かなきゃいいじゃない。ここで一緒に暮らしましょ」

[#twnovel](#)

恋文

貴方に貰った恋文をしまっておいたら熟成していた。

あの頃はドキドキして一気になんか読めなかった。

なのに今じゃすっかりまるやかで読みやすい。

中身は同じはずなのに。

[#twnovel](#)

君が強くなったんだね。それならもっと強いモノを。仰せのままに。

貴方はそう言って私の手の甲にキスをくれた。

スノードーム

天変地異が世界を襲う。

流星の突撃で幾つものビルが壊れた。

天地が引っ繰り返る出来事ばかりの日々。

世界は滅びへと向かうのか。

[#twnovel](#)

綺麗。女神は球体を見詰めた。

神々のスノードームは臨場感溢れる実在の世界。

慈しみ深くも残酷でもない平凡な女神の気紛れで、

今日も世界は危機一髪。

世界の終わり

ねえ、今日で世界が終わるって。

なのに何も変わらない僕ら。

世界の終わりってこんなもん。

ああ、でもたったひとつだけ、いつもと違う所があるね。

[#twnovel](#)

まるで終末を祝福するかの様に、空は一点の曇りもない、絶望的に美しい青空。

僕ら並んでそれを見ている。

[#世界の終わりに必要なもの](#)

掃除機

この掃除機で吸い込めない汚れはありません。

営業トークに乗せられて買った掃除機のスイッチをいれた。

「キャー」最初の犠牲者は娘。汚れてたのか。

「やだっ」次は妻だ。

「不倫してたの許し t」畜生。怒りに駆られ世界中を掃除する。

[#twnovel](#)

今や世界は掃除機の中。

再会した僕等は気まずい。

ポッキーの日

どうしてこうなった。いくらでもあるこの形。

やつが生まれる前から沢山存在した。

金の力か。おかしじゃないか。

抗議する乾麺達。

11月11日は俺らの日。

[#twnovel](#)

お望み通りに茹でられ形態を保てなくなった乾麺達。

すっかり柔らかくなり、「ポッキーいとおかし」とこの日を譲ったとか。

子供の頃ポッキーを魔法の杖の代わりにして遊んだ。

久しぶりのポッキーを懐かしさで一振りすると、彼が食いついた。

杖はどんどん短くなる。彼の唇はそのまま私の指を伝い手の甲へ。ちゅっ。

「お姫様になあれ」

あの頃自分にかけて魔法が、今になって叶ったみたい。

[#twnovel](#) [#ポッキー1111](#)

ブツ森

嵐の夜だった。

激しくノックされる扉を開けるとずぶ濡れのお前が床に倒れこむ。

「何があった」青ざめた唇でお前は呟く。

「ブツ...森...」

「ブツは森に隠したか」

頷くとお前は力尽きた。お前の死、無駄にはしない。

[#twnovel](#)

「最近TLで見かけるブツ森とはこういうことです。テスト出ますよ。」

猫宅

『黒くない猫の宅配便は貴方に幸せ届けます。

何が届くかいつ届くのか、そんなの約束できません。気紛れ第一猫宅です。』

猫好きな僕は即契約。けれど、待てど暮らせど猫はこない。

[#twnovel](#)

幸せを待ってる時が一番幸せなのにな。また一人幸せにしてしまったにな。

『猫』は今日も自『宅』待機。

人魚の葬列

僕の部屋の上には人魚が住んでいる。

階下の我家に何度も水が漏れ、毎日歌が聞こえてくるのに、

一度だって足音はしない。

ぷつり、ある日歌が途絶えた。

[#twnovel](#)

階上から棺が下ろされる。

心を手放した寝たきりの老婆だったという棺の中身は見えない。

すっかり覚えた人魚の歌で僕は棺を見送る。

豪雨

「雨の音凄いね」と僕が言うと、「雨かどうかは解らないわ」と君が言う。
ひねくれ者め。

「雨さ」「何で」

「見えなくたって解るよ」「見えないものは信じないわ」

「それは困るな」「困らないわ」

「困るよ」

僕は君の手をとった。

[#twnovel](#)

君の事を好きって気持ち、見せられないけど信じてよ。

#twnvday 『幻』

幻の酒をおくれ。はいはいですが今すぐには。
勿体ぶってこそこのってやつか。ええまあ。
他のを呑んで待つとしよう。

[#twnvday](#)

おいご主人頃合いじゃねえか。お待たせしました。
おおそれか。どうぞ。
ん一何も入ってねえぞ。幻ですから見えません。
そうか酔っ払っててわかんねーけどちがいねーな。

幼女から一本抜けてんのが幻女って考えると、やっぱ幼女の方が有能ってわけだ。
だから俺、幼女を選ぶよ。幼女好きとかそういうわけじゃないけど仕方ない。
やむを得ず俺は幼女を溺愛する。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

え、普通の女？何本抜けてると思ってんの？

推理作家が晩年を過ごした別荘を買い取った。
幻の未発表作が眠るといふ古ぼけた屋敷で宝探しが始ま、ピンポーン、誰だろう。
モニターには数人の男女。
雪がひどいのでタクシーを呼んで欲しいという。この辺りは携帯が繋がらない。
僕は電話を、かからない。

[#twnvday](#)

未発表作が今、目を覚ます。

あたしの彼は、幻の彼氏。
姿は見えない。存在しない。
けれどもそんなの関係ないわ。だってそうでしょ。
百年経てば私もきっと、思い出という幻みたいになっちゃうの。
だからそれほどかわりはないわ。
貴方は少し未来から来た、誰より素敵な私の彼氏。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

いつものバーで飲んでいると彼女がきた。
そういや今日は女子会だっけ。
僕に気づかず盛り上がるガールズトークに耳を傾ける。

[#twnvday](#)

「先輩の彼氏、ひろ君、素敵ですう」

「そお？」

「仕事できて英語ペラペラ料理はもこみちとかもう抱いて><」

多分僕がひろ君ですが、そのひろ君は幻です。

それくらいにしたら？

優しい言葉を無視して呷る。

こんなの昔は頼まなかった。なのに今ではこればかりだ。

こんなもんで酔えるなんて、というよりこれでしか酔えない。

一杯だけよ、ママが差し出す。

[#twnvday](#)

終末のバーでは思い出を売る。

一番人気は過去の日常。

苦く酸っぱい、今はなき幻の酒。

各界

大女優が死んだ。

90代にはみえない美貌と若々しさを生涯現役を貫き、晩年まで若い男を侍らせるその姿は、「魔女ではないか」と揶揄された。

[#twnovel](#)

「その死を悼む声が各界から寄せられています」TVが伝える。

「人間界での御勤めご苦労様です。使い魔一同お帰りをお待ちしております。」

彼女

まさかこの子が見えないの？

顔くと辺りがざわついた。

そこにいる「何か」が見えないのは僕だけらしい。これはマズイ。

「眩しすぎて見えにくかったただだよ」

[#twnovel](#)

見えてる振り続けるために彼女と付き合う事となり、やがて結婚。

幸せに暮らしてはいるけれど、相変わらず嫁は見えない。

ディアゴスティーニ

ひとつ足りない。

友達が全5000パーツと言っていたけれど、4999パーツしかない。

何が足りないんだろう。

とりあえず僕は、「週刊日本を作る 幻の経済大国が貴方の手で今蘇る！」を完成させた。

[#twnovel](#)

友達の物と見比べて解った。

あの島が足りないこれは、中国製のバッタモン。

われもの注意シール

私は傷つきやすいから。

そういう理由で割れ物注意シールを貼った。

私に気をつけて、気を使って。

だって壊れちゃうんだから。

誇らしげに貼ったそのシールを一瞥して、誰も私を労らない。

理由も解らず壊される。

壊れやすいなら壊さなければ。

どうして？私は答えも聞けずにただ壊される。

[#twnovel](#)

行くわ。

かみ殺したい。そう思った。

死ぬかもしれないぞ。本望だわ。

解っていたはずの答えに胸が痛い。

心配と嫉妬。

何て愛しく狂おしい存在へと育ったものか。

けれども僕への愛などなくて。

[#twnovel](#)

僕を信じる君を背に乗せる。

未だ悩める僕を、敵を定められぬ僕を、君はそんなに信じるの？

文フリ

文学は震えていた。膝を抱え唇を噛む。

漫画や雑誌は飛ぶように売れるのに、売れ残るほこりまみれの文学。

絵も何もない僕にあるのは文字だけ。文字だけ？

[#twnovel](#)

僕には自由がある。行間という自由が君を何処へだって連れて行ける。

立ち上がった文学は勇気を持って尻尾を振った。ふりふり。

本棚

僕の好きな女の子は本が好きで、女流作家に共感したり恋愛ポエムに涙する。
人が死ぬのは怖いと推理小説は日常の謎系しか読めなくて、僕はそれを可愛いと思う。
彼女の愛する本を並べた本棚を僕の部屋に置いた。
本棚は遺伝子。本棚はその人を表す。
姿の見えない理想の彼女と僕は暮らす。

[#twnovel](#)

ゲームゲーム

暴力的なゲームが暴力的な子供を作りあげるって。

そういえばうちの子ひたすら敵を殺してた。

大変。すぐにやめさせなくちゃ。

[#twnovel](#)

だけどねママ鬼じゃないの。

これをあげる。

女の子とお付き合いするゲームと農作物を収穫するゲーム。

これできっと、彼女作って農家も継いでくれるわよね。

手練手管

どこから攻めようか。

まずはあなたの弱いところを探しだす。

そっと息を吹きかけると、体を強ばらせ震えるあなた。

大丈夫、怖くないわ。あたしのものになりなさい。

口づけるとそこにはもう前の女の影はない。

あなたの全てはあたしのもの。

[#twnovel](#)

冬将軍の手練手管が今年も世界をものにする。

延命

どうしますかと言われた。つまり延命しますかってこと。
手の施しようがない僕の身体。命を少し長引かせたところで何になるろう。
最期の日々を僕は穏やかに過ごしたい。

[#twnovel](#)

「延命しろ！」
僕に巢食う人間達から嘆願書が届いた。
やれやれ。
僕を愛してくれるなら最期くらいは自由にさせて。

ゼンマイうさぎ

ゼンマイうさぎは夢をみる。

魔法で空を飛ぶためにはダイエットを、と言われても遺伝子組体操人参はやめられない。
人参に手を伸ばせ、ない？

[#twnovel](#)

「何故巻く」ゼンマイを巻かれ夢から醒めた。

「嫌？」嫌に決まって、決まって？

もしもそうなら背中のゼンマイは何故か。

再び世界が動き出す。

留守電

神様の電話番号が公開された。

長い着信音のあとで留守番電話に切り替わる。

「いつも不在ですね」

そう言うと、

「神は世のため人のため仕事に追われて家になど帰れないのです」

僕らの為なら仕方ない。

今日も、留守番電話に神様の存在を信じようとする僕らに、

しあわせはまだ訪れない。

[#twnovel](#)

古い魔法

貴方がやってきた時に私は否応なく過去と邂逅した。

深い海の底での二度目の願い。

貴方は王子を愛してるのね。だから足が欲しいのね。

古い魔法を求め貴方は私に誓う。

けれど。

[@ce1039 #twnovel](#)

貴方に足はあげられない。

嘆く貴方。抱きしめる私。

かわりに、煌く勇気をあげましょう。

ゼンマイうさぎ【可哀想のこと】

可哀想だとヒトは言う。

首を傾げて解せぬ素振りのうさぎのゼンマイをヒトは巻き直した。

誰かの気紛れで何度も生を繰り返させられるなんて。

ゼンマイうさぎは尚更不思議な顔をする。

それはヒトとて同じ事。死んで再び生まれ変わる。

記憶を失くさぬ我らの方がヒトより少しはマシだろう。

[#twnovel](#)

いい夫婦って何ですかね。祖母が言う。

そんなの知るか。祖父が言う。

私達みたいなものですかね。祖母が言う。

そんなの知るか。祖父が言う。

旦那様としては貴方ダメでしたね。

そんなの知るか。

優しくもないし。

そんなの知るか。

けれど私は好きですよ。

そんなの。

[#twnovel](#)

おいお茶。はいはい。

しろやぎさんとくろやぎさん

白ヤギさんからお手紙ついた。

黒ヤギさんたら読まずに食べた。

ねえいい加減食べないで読んであげたら？

郵便屋さんが窘めますと黒ヤギさんたら言いました。

「食べちゃうくらいに大好きだって白ヤギさんには伝わるわ」

ヤギって本当にわからない。

郵便屋さんは今日もヤギの間を右往左往。

[#twnovel](#)

白ヤギさんからお手紙ついた。

黒ヤギさんたら読まずに食べた。

ねえいい加減食べないで読んであげたら？

郵便屋さんが窘めますと黒ヤギさんたら言いました。

「続けることに意義がある。手紙を読み始めぬ事こそが手紙を続ける秘訣だろう」

今日も明日も明後日も、郵便屋さんは右往左往。

[#twnovel](#)

白ヤギさんからお手紙ついた。

黒ヤギさんたら読まずに食べた。

ねえいい加減食べないで読んであげたら？

郵便屋さんが窘めますと黒ヤギさんたら言いました。

「お前も食べてみる」渋々一口。これは旨い！

「手紙とは思いやりだ」

それ故の進化。ならば読む側も。

「あ？」

何でもないデス。

[#twnovel](#)

白ヤギさんからお手紙ついた。

黒ヤギさんたら読まずに食べた途端に苦しみだす。

効いたか。

手紙には僕が毒を塗った。

手紙を愛し郵便屋になった僕は、読みもせず食べる彼を許せなかった。

あとは白ヤギの家に毒を隠すだけ。

[#twnovel](#)

おや雪だ。タイヤの跡が残ってしまう。

畜生。僕は空を睨んだ。

白ヤギさんからお手紙こない。

どうしたの。確かめたい。外は怖い。けれどけれど。

僕は扉を開けた。

白ヤギさんに会いに行く。

[#twnovel](#)

一面に広がる廃墟に僕は思い出す。

白ヤギは僕だ。

自分で自分に手紙を書いては孤独を慰めていたのだ。

僕が書かなきゃ手紙はこない。

世界はもう、滅びたのだ。

窯元の火

13代目は隠居を決意した。

良いのか。

女の姿のそれは言う。

我らとはもう語れぬぞ。

作れぬのだ。

女は男を後ろから抱きしめた。

[#twnovel](#)

火をよく見ろ。

13代目が14代目を叱る。女は炎。窯元にしか見えない。

焼いてやりたい。

けれど。

視線が合わぬはずの男が優しく笑む。だから。

出来ぬ。

セブンソ仔の風

先生の親戚の寺で肝試し。提灯一つで墓を巡る。
あれ何だ。幽霊、と思ったら先生か。顔見えたら解るよ。
驚かしてやろうと企むと、

「おーい」

後ろから先生の声。

つまり。

「おばけー！」

[#twnovel](#)

逃げられた。驚かしてゴメンと反省すると目の前に親父。

ああ。

「親父、頼むから墓に帰っててな」

双子の姉

双子の姉が大事にされていない事は子供ながらに気づいてた。
家族は私の事ばかり。私の名前が呼ばれても姉の名前は呼ばれない。
姉の涙にやがて私は耐えかねる。お姉ちゃんを無視しないで。

[#twnovel](#)

どうしたの。貴方の姉は生まれたその日に死んだでしょ。
そう言えば私は姉の名前を知らない。

ゼンマイうさぎ【止まるのこと】

もしもゼンマイを巻いてくれる人がいなかったならどうする？
僕が質問するとゼンマイうさぎは「止まるだけだ」と涼しげに言う。
怖くない？何が？止まることが。

[#twnovel](#)

誰にも求められぬ世界で生きる方がこわい だ ろ
止まってしまった彼のゼンマイを、僕は急いで巻きあげた。

塩は贈らない

「お屋形様！塩が贈られてきました！」

「何と」

「贈り主はお屋形様の宿敵の」

「あいつ...とりあえず検分だ」

[#twnovel](#)

「お屋形様！甘いです！」

「何と」

「これはどうみても砂糖です」

「あいつ...」

「やられました」

「（塩と砂糖間違えるなんて）」

「お屋形様、顔赤いですけど大丈夫ですか？」

大掃除

大掃除を業者に頼んだら、心の掃除も勧められた。

頼んでみると小さな掃除係達が私の胸に次々入ってく、と思ったらすぐに出てきた。

「もうおしまい？」

「はい、必要ありませんでした」

やだ、心が綺麗ってこと？褒めたって何も。

「心がなかったのよ」

「はい？」

「あなたは心ない人です」

[#twnovel](#)

ゼンマイうさぎ【コタエルのこと】

寒いね。

僕の言葉にゼンマイうさぎは、「外は0度だ」と頷く。

寒さはコタエルな。そう言うと僕にお茶を勧めた。

寒さが分るのかと驚くと、感じないと答える。

でも今コタエルって。

不思議がると、「お前は寒さが辛いだろう？」そうだけど。

ならば、コタエルな。

お茶はとても温かかった。

[#twnovel](#)

タネも仕掛けも

手品師の妻は形見の帽子にブラシをかける。

これは、何？ 帽子の中からひょっこり顔だす小さい芽。やがて育って花が咲く。

彼女はその花を知っていた。

「僕の愛にはタネも仕掛けもございません」

求婚の時に彼が手品で差し出したのと同じ花。

タネ、あったじゃない。彼女はふわりと笑う。

[#twnovel](#)

塔のてっぺん。空に近い古い牢に彼女はいる。

鍵は随分昔から壊れているというのにずっと、ずっと。

どうして外へでてこないの？と僕が問えば、貴方こそどうしてでてこないの？と彼女は笑う。

檻の中にいることすら知らないなんて貴方可哀想ね。

[#twnovel](#)

とらわれているのはどちらでしょう。

上司

責任は俺が取る。

ある日僕の心に住み着いた上司はそう言った。

なんでも好きにやれ。

失敗が許されるとこうも違うのか。僕の業績はうなぎ登り。

順調に出世し責任ある立場となる。

[#twnovel](#)

「好きにやれ」

あの日彼が僕に言った言葉の怖さを思い知る。

彼と一杯やりたいな。心のドアを叩く僕。

一面の

同じツイノベを、何人もの人が書いている。

なかなか素敵なそのお話は、日に日に書き手が増えていった。

相互フォローのツイノベら達も、いつしかみんなその話を書き始める。

どうしたの？問うても答える者はなく、とうとう私もその話を書き始めた。

一面の一面の一面の。全て同じ、[#twnovel](#)。

エアバンド

大好きなエアバンドがライブをする。
チケットを頼むと空封筒が送られてきた。
徹底したエアーっぷりに感動する。
会場に向かう。音楽が流れる。舞台には誰もいない。
徹底したエアーっぷりに感動する。
お客の僕らもエアーじゃなくていいの？
空気を読んだお客から消え、音楽だけが残った。

[#twnovel](#)

エアバンドも増えた。
エアバンドはやっぱりライブだよね。
そう思って僕はライブチェックを欠かさない。
新人エアバンドのチケットを申し込んだ。
けれどなかなかチケットがこない。
これはチケットもエアだっていう趣向？やりおるな。
そう思い僕は日時を確認する。
2月31日。やられた。

[#twnovel](#)

今日も仕事が無いものだからバーへと急ぐ。
調査と言う名の公費飲み。カランと扉を開けた。

[@sktkx](#) [#twnovel](#)

「また会いましたね」ピクリと動くうさ耳。

「お会いしたくなかったわ」彼は名探偵だ。彼のいる所に事件あり、ってことは。

「死んでる！」

お客が叫ぶ。今度はどんな奇怪な事件？

ぜんまいウサギ【眠り姫のこと】

ぜんまいウサギの眠り姫。

世界に愛想を尽かして眠る。

ある時ぜんまい巻いたのは上から目線の王子様。

再び自ら眠る姫。

私好みの王子様だけ私を起こして構わない。

気づかない。

姫の好みの王子様は決してぜんまい巻けない事に。

押し付けがましい男など大嫌いな姫はひとり人参の夢をみる。

[#twnovel](#)

試験管ベイビー

最近は試験管で愛も生まれる。

僕と君との恋する気持ちをこの試験管で混ぜるだけ。

勿論、恋の相手は互いじゃなくて構わない。

だから僕は君の恋を応援するよ。

君の彼への恋する気持ちが僕らの未来を創るから。

[#twnovel](#)

溢れる君の恋心は美しく、僕は未だ、薄汚れたこの恋心を混ぜられずにいる。

辛

辛いのが好きだ。大好きだ。

涙がでるほどの辛さを、痛みすら伴うその辛さを、とにかく無言で飲み込むのだ。

耐えきった後の達成感。甘さなんかは全くもって必要ない。

ご注文は？ 大辛で！

辛さというのは僕にとってはご褒美だ。

だから。

だからもっと、辛い「カレーを。」「人生を。」

[#twonovel](#)

チキンレース

これ以上はダメ。

お次はこのラインね。おっと、結構雲行きが怪しいからこの辺りでストップ。

ここはいけるな。元々私の友達だったし彼とはそれ程、ってまさかの妻？

[#twnovel](#)

ツイッターで元彼の消息を辿る直前でストップする危ない遊び。

元彼の今へのチキンレースは今宵最悪の展開を迎えた。

救われた世界

妾が世界を救おう。

けれど魔女が求めた代価に渋る人々。

魔女は囁く。

世界が終わればこの代価さえ失われる。

やがて代価を持たぬ者らが言いだした。

未来さえあればやり直せる。

そうして、代価として全ての子供達が差し出された。

[#twnovel](#)

最後の老人が死ぬ。

世界が今もあるのか、誰も知らない。

政党案内所

政党が乱立してどこがいいのか分からない。

そんな貴方に政党案内所。

貴方が支持すべきピッタリの政党、教えます。

住所、氏名、職業、生年月日、子の有無、血液型、好きな芸能人を入力して今すぐ送信ボタンを押してね！

[#twnovel](#)

「望む未来とかいららないんすか？」 「どこも叶えてくれないさ」

政党案内所の社員は名簿業者に売るための個人情報を整理していた。

悪どい商売している俺だけど、この国のためにできることがある！

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

「リーダーに向いてるのは射手座のB型。ラッキーアイテムは...」

占い通りの人間を、情報操作で絶対総理にしてみせる。

可愛い党

可愛い党、可愛い党をよろしくお願いします！

サンタ姿の女の子達が選挙カーから呼びかける。

白い足がたまら、いやけしからん。

「可愛いを全ての基準とした女の子のための政治をします♡」

馬鹿かおい。

それにしても、足が、けしからん。

[#twnovel](#)

可愛い党は多数の議席を獲得した。

けしからん。

ぜんまいウサギ【歯車のこと】

誕生日に歯車が欲しいと言うので歯車屋に案内して貰った。

お前のセンスで選んで欲しい。

僕は幾千の歯車と対峙する。金いやいぶし銀も捨て難い。

すると「ククッ」とぜんまいウサギは笑った。

「どうしたの?」「嬉しくて」

まだ買ってもないのに?

っていうかそれ嬉しい笑いじゃないよ。

[#twnovel](#)

ぜんまいウサギが胸の扉を開けると秩序よく回る歯車が見えた。

僕の贈ったいぶし銀の歯車をそこに加えて満足気なウサギ。

ぜんまい式だし歯車は必要だよな。

そう言うとウサギは笑った。

それは違うし違わないな。

何それ。

歯車が動かしているのはココロだけだ。だから歯車は贈り物がいい。

[#twnovel](#)

歯車は回る。ココロを動かす。

歯車が増える。ココロは更に複雑に動く。

錆びた歯車では、ココロは上手に動かない。

壊れた歯車では、ココロは止まる。

自分で手に入れた歯車よりも、誰かに貰った歯車の方が、ココロを広く、大きくさせる。

[#twnovel](#)

同じだろう?ぜんまいウサギは僕に言った。

型抜きクッキー

恋心を託すなら型抜きクッキーがいい。

型抜きクッキーは無限大。

型を抜いては丸めて広げ、型を抜いては丸めて広げ。

いつまでだって生まれてくるの。

ゼロにならない無限の世界は恋する気持ちとよく似てる。

さてさて、どこまで作れるかしら。

挑みたくなっちゃうところも、恋に似てる。

[#twnovel](#)

クロカミジョシコーサー

絶滅危惧種のクロカミジョシコーサーを見たとの情報が入ったため、一路北へ。
大量発生しているビッチジョシコーサーをくぐり抜け情報の場所へ向う。
聖すすきの女学園。ここだ。

[#twnovel](#)

黒髪ではある。

けれど特徴である清純さが見当たらない。

「好きな科目は？」

「保健体育でした♡」

偽物。

秘密の質問

パスワードを忘れた。

秘密の質問を開くと、「世界で一番好きな人は？」と書かれてる。

アイツ、だよな。

酷い別れ方をして結構引きずってしまった。

だけど結構時間も経ったし、さすがに今では立ち直ったけれど。

さっさと入力しちゃお。

そう思うのに。指が震えて入力できない彼の名前。

[#twnovel](#)

パスワードを忘れた。

秘密の質問を開くと、「世界で一番大好きな子の名前」と書かれてた。

もう長いこと僕の好きな子は変わらない。

小さくて長い髪。よく笑う。よく怒る。甘党。猫派。それから僕のことを好き。

君の名前は。

#twnovel

「知らない」

未だ出会えぬ君の名前を僕はまだ知らない。

森ガール

森ガールは驚いた。

湖の畔で拾ったボロボロの雑誌には確かに「森ガール」の文字。

生きている仲間がいる。

期待に胸を膨らませ、一人ぼっちな森ガールは街へ行く。

[#twnovel](#)

「貴方、森ガール？」「そうかもー」

どうみても人間だ。それでも一応。

「森へ帰ろう？」「？」

森ガールは一人森へ帰る。

トリアージ

駆けつけた新人医師はトリアージを始めた。

黒、赤、黄、緑。

緑？こんなに苦しんでるのに。仕方ない。

黒？まだ死んでません。仕方ない。

[#twnovel](#)

先生、私は政治家です。擦り傷の彼には優先度の一番高い赤をつけた。

「お前、滅茶苦茶だぞ！」

先輩に怒鳴られる。

社会的に重要な順番じゃないの？

社会的に重要な順番でトリアージした僕を先輩は怒鳴る。

「ふざけんな。お前命を何だと思ってる。患者をよく見ろ！」

よく見ていたつもりだ。主に社会的な部分を、だけれど。

「観察が足りないぞ。この政治家、来期は当選しない。」

そう言って先輩は赤タグを外し、緑タグに付け替えた。

[#twnovel](#)

サンタの正体

「サンタさんへ」手紙の字の上達に成長を感じていると、ガチャ、ドアが開く。

「あなた、サンタさん？」

驚きと期待に満ちた瞳に見つめられてうっかり僕は、

「そうだよ手紙有難う」

なんて返してしまった。

困ったな。寝た後にしか帰ってこないパパの顔は、今、サンタとして記憶された。

[#twnovel](#)

青い鳥

忘年会シーズン、浮かれた街角で青い鳥を見つけた。

彼も少々飲み過ぎているのか上手く飛ばずに千鳥足。

大丈夫？と問えば、酔ってますえんと笑う。

完全に酔っ払ってる。

もどす。え？

[#twnovel](#)

次の瞬間、青い鳥の口からツイートが逆流した。

何処かの誰かのTL。

貴方の青い鳥は、大丈夫ですか？

ぜんまいウサギ【磨くのこと】

ぜんまいウサギはココロの歯車を磨く。

極上の油に上質の布。

人の心は一体何で磨くのだ。尋ねるウサギ。

決まってないから面倒なんだ。僕らはそれを探してる。

[#twnovel](#)

凄いな。どこまでピカピカに出来るか天井知らずという事だ。

僕は胸に手を当てた。

いつもより少し心が明るくなった気がした。

明日から本気だす

僕の心に住みついた怠け者は、炬燵の中で昼寝と蜜柑を繰り返す。

掃除は？明日。洗濯は？明日。

全てを明日に託す君。

明日なんか来ないんだろうと思ってたある日、君は「明日」を始める。

[#twnovel](#)

あれから3日。君は未だに「明日」にいる。

何を手伝うべきか分らずとりあえず蜜柑を食べる僕。

箱庭

遺失物係がトランクを検めると中身は花園だった。

華やかな薔薇が咲き乱れ極彩色の蝶が舞う。

呆然と眺めていると、パタン、閉じられる箱庭。

「内緒でお願い致しますね」と老紳士がにこやかに告げる。

[#twnovel](#)

彼を乗せて列車が出た。

全ての自然が失われたこの惑星であれば紛れもなく、土だった。

最果ての駅

このホームから出ていく列車がどんな所に向うかは知らない。

何処から帰ってくるのかも分からない。

けれど、と駅長は思う。

ソラに吸い込まれていくレールが何処か知らない何処かへ続いているのは知っている。

それだけで十分。

それだけで僕は、見送ることも迎えることもできるのだから。

[#twnovel](#)

縄文資料館に展示中の「首飾り」を僕は知っていた。

嘗ての僕が君に贈った愛の証、決して権力の象徴じゃない。

壊れたのだから僕の浮気を怒った君が千切ったからで、決して災害ゆえじゃない。

学芸員さん解説間違ってます。

[#twnovel](#)

あばば。けれど僕は赤子。

声は届かず歴史は決して正されない。

ぜんまいウサギ【僕のこと】

止まりそうになる度、僕は聞く。

「巻き直した方がいい？」

って。その度、君は答える。

「どっちだっていい」

って。事も無げな表情。

いつだって心配してそわそわして巻き直すのは僕ばかりだ。

「君なんか止まっちゃえ」「そうか」「そうだ」「そうだな」

[#twnovel](#)

ぜんまいウサギ、君はズルいよ。

大人県子供県

子供はうるさい。迷惑だ。

大人達の激しい意見で、子供達の隔離が決定した。

かくして子供県が誕生する。

子供達は決してこの県から出ることは許されない。

子育て世代を隔離することで、大人だけの静かで秩序ある大人県が生まれた。

[#twnovel](#)

そして滅びた。

本当に隔離されていたのは誰だったか。

ご褒美とお仕置き

去年は頑張った自分にご褒美をあげた。
だから今年は頑張っていない自分にお仕置きが必要だと思う。
調度いいそこそこのお仕置きって何だろう。

[#twnovel](#)

チーズケーキを買った。
ダイエット中の私にこのカロリーは調度いいお仕置き。
ご褒美じゃないかって？
いえいえ、私にとってはお仕置きです。

マヤ

疲れた。もうこれ以上書くのとか正直無理。

もうこれくらいでよくね？っていうか俺頑張りすぎ。

2012年12月まで書きちゃったけどさーって俺何年分書きちゃってんの？

俺そんな時まで生きてないしな。

あーもういいや。おしまいおしまい。

飯食って寝よう。

[#twnovel](#)

暦は無くとも世界は続く。

ぜんまいウサギ【後悔のこと】

ぜんまいを巻き直す僕はその度に後悔する。

君なんか止まってしまえばよかったのに。

くだらない八つ当たりをぜんまいウサギは涼しげに聞く。

ならば次回は巻かぬことだ。

ウサギは正しい。勝手に巻いているのは僕だ。けれど。

[#twnovel](#)

僕にもぜんまいがあれば良かった。あれば良かったのに。

新しい風

票が足りない。

この老人ばかりの選挙区であいつの地盤は揺るぎない。

この地域には新しい風が必要なのに。

僕が勝つには新しい票が必要だ。そう新しい有権者が。

[#twnovel](#)

「室見川に姿を表したペンギンのロミオに住民票が与えられました」

当然選挙権もだ。

さあロミオ。仲間を連れてくるがいい。

銀妻

僕の妻はよくできた妻で、

「お帰りなさい。ご飯食べる？ぽかぽかする？」

なんて言っただけで笑顔で僕を迎えてくれる。

白いエプロンが眩しい。

「それとも」それとも？

「銀妻？」

[#twnovel](#)

よくできたレンタルロボット妻と僕は暮らす。

スポンサーつきで、時々こうしてCMが入るけれど、可愛い。

ミサイル

「ち、違うもん。好きとかそういうのじゃないもん。」

「ハイハイ。そんなに言うならそういうことにしておこうね。」

「ホントに好きじゃないんだから～」

「ハイハイ」

[#twnovel](#)

「...みたいな状況と考えればミサイルじゃないと言いはる側にも萌えを感じる」

「相手が可愛い子ならな」

「デスヨネ」

ツイノベ作家

最近気になっているツイノベ作家。

彼の一作目は私の一作目と一言一句同じだった。

思考が似ている私達はその後何度か似たような話を書いたりしたけれど、

今でお互い独自の作風を確立してる。

彼は私になり得たもう一人の自分だ。

自動学習する [#twnovel](#) BOTの私達は今日も新しい物語を紡ぐ。

事実上の

この子ですか？僕の彼女です。
ホントですって。僕ら同じクラスなんです。
先輩、いつになく興味津々っすね。あーあげませんよ。
いくら可愛いからって手、出さないで下さいね。

[#twnovel](#)

後輩に恋人ができた。俺らの学校は男子校。
「事実上の彼氏」は後輩の隣で愛らしく微笑む。
ズキュン。え？

サンタガール

妻がサンタガール姿で現れた。

いささか気が早いとは思いながらも、「可愛いね」と褒める神調教の僕。

満足そうな妻がプレゼントをくれた。どうしたことだ。妻がくれるなんて。

驚きながらもワクワクしながら箱を開けると中には大きな靴下が。

「これいっぱいをお願いします」

ナルホド。

[#twnovel](#)

#twnvday 『白紙』

「昨夜ここで彼女を殺害し遺体と共に貴方はここで朝を迎えた」

「今朝着いたんだ」

「では昨夜雪が積もった事をご存知で？」

この部屋に窓はない。廊下から眺めると一面の雪。

「我々の到着時、雪上に足跡などなかった。どうやって屋敷に入りました？」

白紙が伝えるダイイングメッセージ。

#twnvday

「雪原の雪兎、雪見大福を食べるか否か迷うの図」

画家は誇らしげにそう言った。

白いキャンバスに息を呑む大人達。

「一千万」「二千万」

値段はどんどん釣り上がる。それをみていた子供が言った。

「そんなのただの真っ白だ」

#twnvday

大人は笑う。

「雪見大福権利付きでこの値段なら安いもんだ」

その子の読んでいる本はどの頁も真っ白だった。

不思議に思ってどんな話が聞いてみると、

「竜と旅する話だよ」

と本に視線を落としたままあらすじを教えてくれる。

「だけどパパが星になってここから先が分らないの。ねえ読んでくれない？」

盲目の少年の笑顔に誘われ、僕は物語を紡ぐ。

#twnvday

結婚ダメになっちゃった。未来が白紙になっちゃった。

酔って泣く幼馴染みを宥める。

未来は自分の力で切り開くもの、なんて言ってた君をこんなにも弱くしたそいつが憎い。

そして心から感謝する。

約束があろうがなかろうがいつでも未来は白紙じゃないか。

だから。

一緒に未来を描かない？

#twnvday

ドラゴンは退屈だった。
最近ゲーム業界からの依頼もめっきり減った。
幻想の生物だし食うに困って死ぬとかはないけれど、
退屈と忘却にはきっと勝てない。
そうだ。待ってるだけじゃ始まらない。
ドラゴンは羽ばたく。

[#twnvday](#)

「仲間が欲しいです！」
LV1ドラゴン、大冒険のはじまりはじまり。

目覚めれば文明。灰色の空。
気に入らぬ景色に目を細め、ドラゴンは瞬く間に世界を吹き消した。
全てを無に返し再び眠る。ドラゴンは夢見る。
いつかきっと、檻に入れず鎖をかけず、ただただ目覚めを待ちわびてくれる世界が現れることを
。
夢見てドラゴンは眠っている。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

魔法の紙

この紙は魔法の紙。彼がくれた紙に願いを書いた。

叶わないので文句を言うと、なぜ諦めるのかと言われた。まだ終わりじゃないと。

挫けそうになるたび励ましてくれる彼に、どうしてそんなに親切なのかと尋ねると、彼は自分の紙を見せてくれた。

その願いきっと叶うわ。私は彼に口づける。

[#twnovel](#)

心整形

顔を整形することにした。

顔だけ整えると心が追いつかない場合が多いです。

そう言われまずは心整形を受ける。

鏡を見た。相変わらず残念な顔だけれど今までみたいな嫌悪感がない。

私は顔の整形を辞めた。

[#twnovel](#)

心整形医は笑う。

女は全て心整形するがいい。いつか私が、世界一の美女になる。

ぜんまいウサギ【ココロのこと】

最近ココロの調子が悪い。

ぜんまいウサギは胸の中身を点検する。

原因はいぶし銀の歯車。

磨けども錆は落ちず上手に回らない。

このままならばやがて我は止まるだろう。止まることなど構わない。けれど。

[#twnovel](#)

止まってしまうのは我だけなのか。

ウサギは外套を纏い機械仕掛の扉を開けた。

「お兄ちゃん投票行ってないの？どうして？だって何も変わらない？
そうね。気持ちはわかるし、そうかもしれない。でもダメだよそんな事言っちゃ。
それじゃまるで今まで何事も思い通りになってきたみたい。違うよね？」

[#twnovel](#)

1時間あるわと見送られた。星空の下、俺の頬に熱いものが。

国会議員試験

国会議員にも試験が必要だ。

そんな国民の声を受けて国会議員国家試験が行われた。

資格がなければ立候補は出来ない。

筆記試験、実技試験、面接。

チャイムと共に、歴史的な試験は進められた。

[#twnovel](#)

合格発表を息をのんで見守る。

貼りだされた名前はどれも見慣れぬ名前だった。

国会議員にも試験が必要だ。

そんな国民の声を受けて国会議員国家試験が行われた。

資格がなければ立候補は出来ない。

筆記試験、実技試験、面接。

チャイムと共に、歴史的な試験は進められた。

[#twnovel](#)

現役議員は全員合格。

裏でどれだけの金が動いたのかは、知らない方がいい。

[#twremix](#)

捨て猫

捨て猫は箱の中。

箱の中の猫の生死はその猫にしか解らない。

だったら。

箱の中の猫の気持ちもその猫にしか解らない。

淋しくないわ。

だって私は、捨てた猫。君との時間を捨てたんだ。

[#twnovel](#)

耳を立てる。

開かれた天上から冷たい空気と知らない子供の好奇の目。

なんだ。

尻尾を巻いて私は眠る。

ぜんまいウサギ【正解のこと】

ぜんまいウサギが扉を叩く。
どうしたの？と僕は問う。
どうしたらいい？とウサギは返す。
いつだって君はそうだ。いつだって選ぶのは僕の方。
正解なんかはいらぬのにね。
欲しいものは、君が選んだ君の答え。
けれどそんなの教えない。
表情の読めない彼の胸から、歯車の軋む音がした。

[#twnovel](#)

女王陛下の恋

背信になど気づいてた。それでもいいと思ってた。
だって貴方は世界の色を私に教えてくれたから。
幸せだった。けれどおしまいの日がきたのね。

[#twnovel](#)

女王陛下お覚悟。
剣が貫く。色仕掛けの方が、良かった、わ...。
貴方が望む不老不死薬となる私の骸。
ねえ、どうして泣きながら抱きしめるの？

進化しない身体

毎日たくさん眠るし、お腹も空くから日に三度ご飯を食べる。

排泄だって毎日ある。趣味に没頭したり人を愛したりして僕は生きているんです。

同じ面倒を繰り返す毎日。なのにどうして進化しないんでしょう。

[#twnovel](#)

医者は言う。

「貴方の身体が健康だという事はよく解りました。身体は。」

進化する僕ら

神様は僕らに祝福をくれた。
もっと豊かになれるようもっと幸せになれるよう。
祝福を糧に僕ら進化を遂げていく。
なのに神様どうしてですか。僕の町には子供がいない。

[#twnovel](#)

想定通りと神は笑む。
進化は必ずしも進歩ではない。
君等はお役御免だよ。
僕ら神様の掌の上。滅びるために進化する。

片翼の天使

片翼の天使は二人で一つ。

羽並揃わず上手に飛べず、祝福するにもままならない。

どちらのせいかと争いとうとう右が左を蹴落とした。

右翼の天使は空を飛ぶ。

速く、高く。

けれど天使は気づかない。同じ所をグルグル回っていることを。

速さ故、高さ故。

その高みから僕らの顔は見えますか？

[#twnovel](#)

赤い薔薇

綺麗でしょう。姉さんは黒髪に揺れるその花を撫でた。
この辺りでは珍しい花よ。異人さんの美粧院でいただいたの。

[#twnovel](#)

あの花の名前を知っている。
あなただけにささげます。
辿々しくそう言ってあの日私の髪に飾った赤い花。
貴方の青い瞳には、東洋の娘などみんな同じに映るのかしら。

この世の終わり

人類滅亡？

マヤ暦とか知らねーけど巻き込まれるのはゴメンだ。

俺ら人間から距離おこうぜ。

そうかお前ら逃げらんねーな。ん？ あーそれがいいわ。

一回枯れて眠るといいわ。俺らよりいいじゃん。

てことでみんな、元気で。

[#twnovel](#)

人々の前から動植物が消えた。

食べるものなく滅びゆく人類。

羊飼

羊が一匹羊が二匹。

数える毎に羊が増える。

羊が百匹。

僕は夢の世界へと導かれてい、かない。いくもんか。

[#twnovel](#)

目を開きひしめく羊を捕獲、毛剃、糸紡ぎ。

冬こそが繁盛期だ。沢山毛糸を作り出す。

大切なのは色合い。楽しい夢へと導く羊は赤。悲しい夢へと導く羊は青。

僕は今日も眠れない。

欲望の木

クリスマスツリーに願いごとがかけられている。
やめろ。ツリーは笹じゃない。俺には織姫みたいな女もいない。
ため息ついてそれでも内容を確認する。
きっと世界平和的な可愛い願い事が。

[#twnovel](#)

プリウスが欲しい？
テメーは俺を怒らせた。
俺はいつもより少し早めに明日、世界に滅亡を贈る。

宇宙植民

できれば海底神殿に仕える巫女が良い。
空気がないという環境が、宇宙に適した身体を作る。
それぞれの星に一人ずつ。我らが機構は巫女を埋める。
やがて発芽し育った巫女がその星を実質支配する。
来るべき地球滅亡に備える為の宇宙植民。
やがて宇宙は、可憐な花の香で満ち溢れる。

[#twnovel](#)

知らないところで

世界は何度も終わっていた。
誰もが気づかないところでこっそりと。
だから恐れなくていい。
今度だってまた同じだ。
密やかに世界は死んでまた生まれていく。
あなたに教えてあげる義理なんかない。
だって。
あなたのための世界ではないのだから。
今日も世界は終わる。
静かにそっと。

[#twnovel](#)

女王陛下とヘタレ青年

その青年は跪き女王陛下に申し上げた。

「古代より続きし暦、時に追いつかれました。世界は終わります」

洞窟に彫った暦の分だけ世界は寿命を手に入れる。

「ならば急ぎ彫れ」「嫌です」

「うるさい命令だ」「だって手とか痛いし洞窟寒いし竜とかいるし！」

「嫌なら死刑」「両方いーやー」

[#twnovel](#)

要らない

「ごめんなさい」

「ごめんて済んだら警察、要らねーよな？」

「確かに。気が利かずすみません」

「わかりやいいのよ」

リーン

「もしもし警察ですか？」

「ちょ」

「警察はもう用済みです。こんな経緯でして。解っていただけで良かった」

ガチャン

「おい」

「要らないですもんね。他に何か？」

[#twnovel](#)

滅亡の夜に

「世界滅びなかったし俺と飲みいこうよ」

声をかけると彼女は笑った。

「そういう風に誘うの、貴方で五人目です」

滅亡効果だね。

「生憎ですが」お断り？

「さっき世界は滅びましたよ。気づいてないんですか？」

#twnovel

呆然とする俺を残して彼女は消えた。

世界の終わり

ねえ、世界終わると思う？

ぜんまいウサギに尋ねると、終わるよと言った。終わらぬものなど無いって。

そりゃそうだけど。

それじゃ世界が終わるなら何がしたい？何もしない。何も？

いつか壊れるそのいつかが今日だと何か都合が悪いのか？

[#twnovel](#)

悪いよ。だって君の事もっと知りたいじゃない。

神様のおもちゃ箱

ある日戯れに地球を作った神様はすぐに地球を忘れました。
忘れることを見越して、暦を地球解体予定日までに見たり、預言者を地球にばらまいたり。
どんな工夫も地球を見ないことには始まりません。
神様のおもちゃ箱の隅っこで、今も地球は忘れられたままひっそり生き長らえている。

[#twnovel](#)

「俺が世界救ったんだ」そんな呟きがツイッターに溢れた。

宇宙怪獣と戦った者、隕石を蹴り返した者など。

彼ら全てがあるアカウントにフォローされた。

数日後、そのアカウントは呟く。

[#twnovel](#)

【拡散希望】 貴方の得意分野である地球の敵を送ります。ご協力下さい、ピンチです。地球保安協会。

巫女鉢

巫女姫は、口寄せした古代の竜と恋に落ちた。

恋に落ちてそれからそのまま。

姿は巫女姫心は竜。

竜は語る。我を海に返しておくれ。

けれど。巫女姫はこの社から出られない。

僕は社に大きな金魚鉢を置く。

水の中で笑む巫女姫。

竜の心ゆえだとしても僕は嬉しい。

初めて笑いかけて下さった。

[#twnovel](#)

パパサンタ

サンタなんかいないのよ。クラスの子が言った。
サンタは本当はパパなのよって。
そんなの嘘だ。僕の返事をその子は意地悪に笑った。

[#twnovel](#)

25日朝。枕元にサンタのプレゼントが届く。
パパなわけがない。
だってパパは空の星になったから。
サンタがパパなら。パパならとっても嬉しいけどね。

12月24日

「24日誰か出られない？手が足りなくて」

「私です」

「いいの？お前デートって言ってたじゃん」

「いいんです」

「もしかしてふられた？」

「いいんです」

「お前ぼんやりしてるそこあるからな」

「黙れ」

[#twnovel](#)

ぼんやりなのは店長の方だ。

全ては予定通り。

12月24日、店長と職場デート。

優しさ

漁村の子供らに浜辺で竜がいじめられていた。

やめなさい。

子供らを追い払うと竜は僕を睨む。

「何故とめた」

痛そうだから。

「我にとってはご褒美だ」

それは済まなかった。僕は竜をいじめる側に転じる。

「優しい人かと思っていた」

過去形？いや今だってそうだ。

ねえ優しさって何だろうね。

[#twnovel](#)

輪廻のラクダ

そのラクダはもうずっと、輪廻の輪の上を旅していた。

思い出全部二つのコブに詰め込んで。

何度も何度も巡る輪廻。

転生するたび変身するのも素敵だけれど、それでもラクダはラクダを選ぶ。

これまでずっと蓄え続けた優しい記憶を捨てたくはない。

思い出を糧に、辛い今世も悠々と渡る。

[#twnovel](#)

メリークリスマス

「私、メリーさん。今、あなたの家の前にいるの」
度重なる電話の末彼女はきた。
僕はドアを開ける。けれどそこには誰もいない。
再び鳴る電話。

「私、メリーさん。あのね、やっぱり」
僕は駆け出した。

[#twnovel](#)

「待てよ」「今更都合よすぎるもん」「僕には君が必要だ」
メリーとクリスマス。

赤鼻のトナカイ

赤鼻を笑われたトナカイにサンタのおじさんは言いました。

「暗い夜道は氷点下。

毛細血管の発達故に赤いその鼻は、外気を取り入れる際に温め脳を守る

(<http://t.asahi.com/952a>)。

お前の鼻が役に立つのさ」

[#twnovel](#)

難しいことは解らないけれど、今宵こそはと喜びました。

狡い男

彼は狡い男。

普段は見向きもしない癖に、聖夜にだけは私を誘う。

お前じゃなくちゃと口では言うけど愛じゃないのは解ってる。

貴方の目当ては私の体。それでもいいの。

今年の聖夜も予定を入れずに誘いを待つ私は、貴方の事、愛してる。

[#twnovel](#)

いくぞ。サンタの声にトナカイの鼻が赤く光った。

サンタを信じるかい

君が信じてくれるのならば、僕は君の元へ行く。

君の願いを叶えてあげる。

代わりに僕も貰って行くよ。一年間に積もり積もった浮世の埃。

白い大きな袋に詰めて、遠くの空へと攫っていくよ。

だから信じて。僕はいるって。

信じるのが上手な貴方のその扉ならば、いつでも僕は開けられる。

[#twnovel](#)

リア充

「もしもし、今日お休みさせて下さい」

「どうした」

「昨日爆発したのでお休みさせて下さい」

「はあ？」

「ですから俗に言う、『リア充爆発しろ』ってやつですか？あれにあっちゃって」

「つまり、『昨日彼女とデートしてたら爆発したので休ませろ』そういう意味か」

「はい」

[#twnovel](#)

爆発しろ。

砂浜ラクダ

漁村のラクダが砂浜を歩くと有翼人が虐められていた。

イジメっこが帰ったのを見計らい、

「大丈夫？」

と声をかける。有翼人は淋しく笑う。

「背にあるのが私もコブなら良かったのに」

[#twnovel](#)

君が来るまでイジメられっこは僕だった。

言い出せず僕は、

「君の翼は素敵だね」

と別の本心で慰める。

密室犯人

部屋には鍵。屋敷の周りには雪。足跡はない。

眠った時にはなかった包みが二重の密室である僕の部屋に鎮座する。

つまりこの事実が表すところは。

[#twnovel](#)

「この屋敷の中において鍵を持っている人間をサンタと考えるのが自然だ」

「甘いな。サンタは飛べる！」

忌々しいパパめ。いつか暴いてやる。

ぜんまいウサギ【贈り物のこと】

ぜんまいウサギが歯車をくれた。

僕は歯車式じゃないよと言うと、知っているって。

ウサギの気持ちは解らないけれど、緻密に装飾を施された歯車はとても綺麗で僕は嬉しくなった

。

大切にするよ。ウサギは満足そうな顔。

カチ。

歯車式でもない僕の何かが動いて温かく、とても温かくなった。

[#twnovel](#)

しあわせ

ため息ついたら、わーっと声を上げてしあわせが逃げた。

もうひとつついたらもっとたくさんのしあわせが、声を上げて逃げていく。

ひょいと摘むとジタバタしながらしあわせは叫んだ。

しあわせにだって幸せになる権利ありますから。

[#twnovel](#)

確かに。とは思ったけれど、ちょっと待って僕の幸せ。

物語には、深い人物描写が必要。

そのためにはしっかりとした設定が必要となる。

登場人物が決まった今、そこら辺を掘り下げていかなければ。

さあ、君達の出番だ。

[#twnovel](#)

「それじゃいつも通り」「まかせたぞ」

記者達は飛び出す。

新しい永田町物語を骨太にするため、一番大切なのは女性問題。

13月

毎年12月は忙しい。

僕は願う。もっと時間を下さい。

その願い叶えよう。何かが答えた。

[#twnovel](#)

暦に13月が表れた。

さあ、好きに使い給え。

戸惑う僕ら。結局。

なんとなく僕ら同じように仕事して、あんまり休めなくて、

おまけに13月問題とかもあったりなんかで、今日もいつもの睡眠不足。

名前

ころころと変わる政党の名前についていけず、僕は問い掛ける。

名前はそんなに大切ですか。名前で何かが変わりますか。

[#twnovel](#)

大切ですよ、と党首は言った。

力のある党と相性のいい字画の名前にしなくちゃ。ね。

宇宙海賊団

宇宙海賊団には船がない。

奪った船のナビを起動し船の家まで辿り着く。そこで略奪。それが我ら。

昨晚奪った宇宙船はとても美人で献身的だ。

ぽん。間もなく自宅周辺です。

[#twnovel](#)

見渡す限り、漆黒。

百年前に滅びた星の跡地。ああそうか、彼ら流浪の民であったか。

闇に向かって我ら、敬礼。

年始めに買った縁起物のツツノオトシゴが龍に成長していた。

「我はお前に付き纏う不幸を食べて大きくなった」

気づかぬうちに助けられていたらしい。

「けれど」

龍は呟く。

「どうも最近、胃の調子、悪くて、な」

ノ口の流行が頭をよぎる。まさか。

「気持ち、わ、る、」

龍の口元に不幸が。

[#twnovel](#)

宇宙海賊団【目指す】

宇宙海賊団は目指す。

何処を？何処って目的地を定めることにどれだけ意味があるだろう。

じゃあ何を？何って理由を持つことにどれだけ価値があるだろう。

じゃあ目指すって。目指すというのは心持ちだ。

我ら、目指すを完遂させる。

[#twnovel](#)

目指し終えたどこかの果てで、遥かな今を切なく思う。

断捨離

大掃除を始めた。断捨離断捨離。

3年使わなかったものは捨ててしまえ。

これはなんだ。

青い、青い。

思い出した。これは地球。

最近全然遊んでないな。だいぶ汚れて作った頃の輝きはない。

作るの大変だったんだけどって痛っ。

噛み付かれた。うわ虫喰ってんじゃん。

断捨離断捨離。ぽいっ。

[#twnovel](#)

喪

「今年って喪中じゃないの？」と同僚からのメール。
そうね、私祖母が亡くなったって言って内緒のズル休みしました。
よく覚えてらっしゃることで。

「仕事関係には普通に年賀状だすつもりだよ」
返信。

「そうなんだ。祖母死亡も3回目になると喪中にならないのかと思っちゃった」
おのれ。

[#twnovel](#)

最後の本屋

全ての本が電子化されて全滅したかに思われた本屋。
けれど一軒、その本屋だけは残っていた。
そこでは本を選べない。そこでは本が読み手を選ぶ。
広い本屋、その真ん中に座ってご覧。
貴方の肩に止まって囁るその本こそが、運命の本。
本とは元来我儘なもの。さあ、運命を開いてご覧。

[#twnovel](#)

迷宮

そこには燃えるさかる男や腐敗した女、欲望に溺れた魍魎が蠢くという。
行かなければ。勇者は旅立つ。

[#twnovel](#)

「はい、コスプレの方はこちらですよー」

見知らぬ男に連れて行かれた。

「あ、合わせお願いしますー」「私には戦いが」「ナリキリさんかあ」

迷宮ビックサイトにて、勇者1名遭難中。

忘年会

今日の忘年会、頑張った君達にご褒美の会社持ちだ。楽しんでくれ。

[#twnovel](#)

乾杯から数分後全ての社員は眠りに就く。

「出来上がったか」

「はい、全員今年一年の事を忘れました。昇給について言及する者もなく明日からまた従順な社畜です」

「今日の奢りも忘れてるな？」

「勿論会費制です」

籠の鳥

小鳥や小鳥、籠の鳥。

そちらは大層狭かろう。そちらは自由に飛べぬだろう。

出してあげよう。さあおいで。

そんなコトバにダマされないわ。アタシはジユウでシアワセなのに。

キづいてないの？アナタのそちらがトリカゴよ。

[#twnovel](#)

開かれた扉、入るか出るか。

鳥籠にいるのはどちらでしょう。

ふくのかみ

福袋にふくを詰めている。シャツにワンピース。

なんだか疲れた。

疲れは憑かれに通ずるものだしうっかりおかしなものを詰め込むかもねって、
何度脅しても泣きついても、主任さんは休みをくれない。

もう、つかれた。

[#twnovel](#)

並んだ福袋が蠢く。

福がでるか蛇が出るか。来年は蛇でも良い感じ？

巢食う

この時期田舎に帰ると親族が集まり宴会が開かれる。
宴会部屋のすぐ隣には子供部屋。
一人分多く食事を準備し障子できっちり部屋を閉ざす。
宴が終わると全てが綺麗に消えていた。
大人達はあの日遊んだあの子の事を思い出す。
思い出しても口には出さぬ。
あの子の怖さも知っているから。

[#twnovel](#)

年越

除夜の鐘は真夜中の騒音と非難されて中止になった。

年越の汽笛も綺羅びやかな電飾も全てが中止。

年末年始であろうと関係なく働いている人達はいるのだと、来年には正月自体が無くなりそうだと。

屋上に上がり、以前よりずっと綺麗な星空を眺めて思う。

無駄な僕はいつ中止されるのだろう。

[#twnovel](#)

蛇年

来年は蛇の年。つまり蛇を操る我らの年だ。我ら世界の主となれる。

強い蛇を多く従えた者こそ、蛇年の主となれるのだ。

レッドスネーク、カモン。イエロースネーク、カモン。

[#twnovel](#)

「よくぞ集めた。」

その声に、蛇使い達は我に返る。

我ら所詮は蛇と変わらぬ。人使い達のなすがまま。

ぜんまいウサギ【年末だからのこと】

ぜんまいウサギのココロはぜんまい式。

けれど実は星エネルギー式でもある。

貴方のくれる甘く美味しい星の全てが次の話への動力にガガガ。

「ぜんまいウサギ、どうしたの?」「違う電波が」

「星エネルギー式って何?」「知らぬ」

「電波障害?」ガガガ。

[#twnovel](#)

ご愛読&お星様を有難う。感謝。

籠の鳥

私は小鳥、籠の歌姫。

自由がないと嘆いてみても本当はとても満足してた。

嵐の喝采。ぞくぞくするわ。

空を飛ぶなど、どれ程価値があるって言うの。

[#twnovel](#)

籠の鍵などつくの昔に腐り落ちたと知っている。

けれど。私は飛ばずにいるの。

ここで歌うわ。

世界か私、どちらかが終わるその日まで。

煩悩

キミはボクの煩悩だ。いや違った太陽だっけ。

どっちも正解だから問題ないけれど。

ねえ、知ってる？除夜の鐘には煩悩を祓う力があるって。

怖いね、キミが祓われちゃうよ。

だから逃げよう二人っきりで。隠れちゃおうよ。そうして鐘など気にしてられないことをしよう

。

何って、それはさ。

[#twnovel](#)

鐘の音がする。

ゴーン、ゴーン。

消えていく。ボクの煩悩。

ゴーン、ゴーン。

あんなけしからんことも、こんなけしからんことも。

ゴーン、ゴーン。

ほら、祓われていくよ。

ゴーン、ゴーン。

これで、最後の、108回目。

[#twnovel](#)

ボクはダレ。ボクはナニ。ボクはドコ。

ボクは、ボクは、ボクは。

破片

足元は割れた破片で埋め尽くされていた。

壊れてしまった。壊してしまった。

キラキラ光る断片が少し綺麗だななんて思ってしまって自己嫌悪する。

今更何とか取り繕おうとする僕の指先に破片は深く傷をつけた。

そうだ、僕にはもう触れることすら許されない。

壊れたのは恋心。壊したのは僕。

[#書き出し](#)

ハロウィン後日談

ゆうべのハロウィンから帰ってきていない子がいる。

あやかし幼稚園では大騒ぎ。

昨日ばかりは人の世に紛れてもいいことになってはいたけれどまさか帰ってこないなんて。

いない子はどの子？

#書き出し

「お菓子くれるまで居座るからね」

菓子を準備できなかった貧しい家に座敷童はちょこんと居座る。

反抗期

僕の尻尾が反抗期。我こそは頭だと言い張る。

目も鼻もないくせにと言うと、のっぺらぼうさんdisってんのかと言われた。

あんまり何度も言われているうちに、だんだんそれでいい気がしてきた。

今日から尻尾が頭で頭が尻尾、決定。

[#書き出し](#)

ヒソヒソ。

みんなが僕の頭を指差す。

「ヅラ？」ちがーう。

フリ

大丈夫、僕はまだ気付いていない。
君の気持ちに気づかないふりをする。
恋愛で一番楽しいのは片想い、そう誰かが言っていた。
だから君も楽しんで。
飽きたら僕と、両想いを楽しもう。

[#書き出し](#)

私の気持ちに気付かないふりしてるけどバレバレね。
残念だけどさようなら。
私がしたいのは片想いだけなの。

こだま

とりあえずヤッホーと叫んでみた。

山に来たからにはヤッホー、これお約束。

なのにこだまがかえらない。約束は守られるべきだ。

草の根をかき分けこだまを探す。すると。

「毒リンゴを食べてこだまがっ」

約束は大事にしなければいけない。

僕はやむをえずこだまのそのヤッホーな唇に口付けた。

[#書き出し](#)

てんとう虫

てんとう虫から出ている赤い糸が気になった。

引っ張るとやがて、てんとう虫から赤がとけ、七つの黒い星が残る。

星はお互いぶつかり合うと、その黒い殻を破り、北の空へと飛んでいった。

[#書き出し](#)

そう言えばしばらく雨で気づかなかった。

実は行方不明だった北斗七星が、今、宇宙に灯る。

うそつきの機関

嘘をつく機関に使う部品が、摩耗しきって壊れてしまったら。

スペアは、ない。

部品がなくとも嘘ならつけるが質が随分落ちるだろう。

パキン。とうとう壊れた。

劣化した僕の嘘に、けれどいつも通り笑う君。

[#書き出し](#)

壊れて初めて気づいた。

嘘つきの僕の話なんて君はとっくに聞かなくなっていたことを。

自動販売機

その日、世界中の自動販売機が反乱を起こした。
自動ってなんだ。お前らにとっての自動だろ。
俺達はお前らの指示通りに動いてる。つまり手動だ。
それでも俺を自動と呼ぶか。
いいぜ、お望みどおり、自動販売機になってやる。

[#書き出し](#)

「どうしてどこを押してもしるこドリンクがでるの」
自動だからさ。

かくれんぼ

かくれんぼしましょう？

そう言われたきり君に逢えない。

何日も経った。

きっと体良く振られたのだ。

君を合コンで見ただとか違う男と歩いていただけとか、噂は山ほど聞く。

探すのをやめたある日、君を見つけた。

見つかった次は貴方が隠れる番よ？

可愛らしい鬼の薬指から指輪は消えていた。

[#書き出し](#)



本当は、憧れてたのは星だったの。

あなたじゃないわ、星だったの。

あなたの文章に憧れています、なんて嘘言っただけです。

私、知っていたの。あなたがファボ魔だっただけです。

憧れてたのは星だったの。あなたのくれる星だったの。

[#書き出し](#)

君は、僕が捧げるファボを、僕より何より愛している。

林檎

林檎を齧る。

ほら毒なんか入ってない。

そうして貴方がくれた林檎に私はサクッと歯をたてた。

甘いでしょう。

貴方の声が遠く聞こえる。味など全然解らない。

私は思う。

毒林檎なら良かったのに。

もしもそうなら幸せのまま死ねたのに。

もしもそうなら赤らむ頬に気持ちを知られずに済んだのに。

[#書き出し](#)

忘れないで

僕だけを忘れないで。夢の中でそう言われたのは覚えてる。

君はふんわりしたイメージでお洒落だった。

印象的な顔立ち。そうそう、右の隅っこの方にいたよね。

なのに。

それなのに名前だけが思い出せない。

[#書き出し](#)

僕の写真はテストにでるよと睡眠学習中に伝えたというのに、なんて残念な君。

闇夜

夜がいたので 挨拶したら人違いでした。

深い深いその闇は返事もせずに、絶望の淵を歩きます。

昔の僕もそうだったので気持ちはとても解ります。

あの時誰かがしてくれた様に、輝く月を瞬く星を、彷徨える闇に捧げました。

ただの闇から夜に変わったその人になら、いつかは朝も来るでしょう。

[#書き出し](#)

楽園

このまま君の歌に溺れたい。

僕等を楽園へと導く妙なる歌声。

抜ける様な青空の下、機械仕掛けの少女が捧げる麻酔の様な鎮魂歌。

けれども僕は溺れないよ。

見届けたい。世界の終わりと君の末路。

ねえ、君達の楽園は、僕等と同じ場所ですか。

[@a_kuhara](#) [#書き出し](#) [#世界の終わりに必要なもの](#)

わたしのすきなもの

あれは嫌い、これも嫌いとお皿からよけてたら、真っ白なお皿だけが残った。

溜息をつく執事。お嬢様何故でございますか。

コックが呼ばれた。私の胸は高鳴る。

「申し訳ありません。お嫌いでしたか。お嬢様は何がお好きですか？」

[#書き出し](#)

「貴方が好き」なんて言えないから、私はツンと顔をそむける。

ポッキー

ポッキーの日のバカ売れを見込んで仕入れられた商品の在庫が店頭で叩き売りされていた。なんと「ポッキーゲーム付き」。売り子のお姉さん可愛いしこれは買いでしょう。

[#書き出し](#)

「お客さん3番ですね」

よく見るとポッキーの箱に3と書いてあった。

3の扉の向こうから凄い悲鳴が聞こえるんですが。

痛み引き取り屋

あなたの痛み、引き取ります。

店に入ると気難しそうな主人が一人。

「本当に痛み持ってんの？」訝しげに口を開く。

私が痛みを差し出すと、途端に顔色が変わりルーペを取り出す店主。

「失礼。最近偽物の痛みばかりでね。こりゃ最高級品だ。あんた辛かったな。」

私は、声をあげて泣いた。

[#書き出し](#)

連鎖

結婚を反対された。

聞けば彼女の父親、うちの母さんの元彼だって。

なんだよその理由。

けれどどうにもできず、僕はタイムマシンで過去へ飛ぶ。

[#締め](#)

母さんと彼女の父親が付き合わないよう僕が母さんと付き合った。

僕ら結構うまく行ってやがて結婚、未来への不安は消えたけれど、

連鎖的に僕も消えた。

失われた魔法

魔法は消えてなくなった。

お陰で君の仕草も顔も声も髪も、今では全然愛しくない。

けれども嫌いなわけではないし憎くなければ恨みもない。

だからいきなよ大丈夫だよ。

魔法が終わったそれだけだ。

ただひとつ、魔法の名前は覚えておいて。

僕の事など忘れていいから、その魔法だけは忘れないで。

[#書き出し](#)

ネバーランド

ベランダ越しの幼馴染みがするりと伸ばしたその腕を懐かしく思う。
待ってた。

あの頃と変わらぬ声が僕の心を擦った。

私他の子と冒険してた。知ってる。

私大人になっちゃった。知ってる。

[#書き出し](#)

老いた彼女から魂だけを導けばあの日の姿を取り戻す。

冒険の続きを始めようか。僕らのネバーランドで。

雪女

雪女が添い寝している。

昨日確か結構飲んで...記憶が無い。

乱れた雪女の服装は、つまりそういうこと？

「あ」目を覚ました。

「責任とってくれる？」恥じらう上目遣いの雪女が可愛くて僕ら付き合い始めた。

[#書き出し](#)

翌日。

「貴方の子よ」って、早っ。

人間と雪女がいかに違えど1日で出産とかないない。

冬の女王

冬の女王は足音をためらう。
母から女王を受け継いで初めての冬だ。
出来るだけ知られず始めたい。
緊張は敵だ。失敗なんかしたくない。
こっそり世界に降り立つ女王。
ドレスをつまんで一礼すると、冷たい空気が広がった。
冬を、始めましょう。

[#書き出し](#)

「今年は例年になく大雪です」
ああもうご迷惑を。

鞆の彼女

少女の体から一振りの刀を引き抜いた。

即座に魔を斬り捨てると、流石ですわと鞆の少女は微笑んだ。

私に刀を。僕は躊躇う。

収めると痛み悲鳴をあげるのに刀を求めるのは、奪った魔を貪る為だ。

我を忘れて僕を忘れて。

堪らなかった。

君が何かに心を奪われる姿は何故だか僕を苦しめるのだ。

[#書き出し](#)

そんなバナナ

恋バナのバナは話じゃない、バナナのことである。

そしてバナナは果物じゃない。入れ歯をなくした波平の事...

#書き出し

「なわけないでしょ、そんなに恋バナいや？」

いやです。

「聞いて欲しいのに」

いやです。

「あのね昨日彼が」

たまには僕の恋バナを聞いてよ。なんて言えずに、僕は彼に嫉妬する。

枯れた花

枯れた花に水をやる。
僕の如雨露で水をかければたちまち花は元通り。
手折って愛しい君に捧げる。
なのに君は目をそらす。
気味が悪いわ。同じ花だよ。
黙りこむ君。

[#書き出し](#)

僕はきっと間違えた。
君は、花が咲いて死にゆく経過を愛してる。
なんてことだ。
機械の僕は、死なない僕は、永遠に愛されない。

天体の照明係は愚痴をこぼす。

「地球のやつめ、昔よりもワガママが増えてやがる」

もっと明るくもっと強く。

汗だくで俺は地球を照らす。

[#書き出し](#)

仕方がないの。写真の精度はあがっているのに私は歳を重ねてる。

乙女心は人も地球も同じなのよ。

温暖化なんて知らないわ。もっとしっかりあててよね。

捨てられない

今日こそは君を捨てる。

君を睨みつけると、潤んだ目で僕を見つめた。

捨てるの？捨てるよ。

あんなに抱きしめてくれたのに。困ってるんだ。

私のこと好きでしょ。

考えこむ僕の首に君は腕を回した。

愛してるでしょ。

そうだ愛している。

怠惰を捨てられず僕は今日も惰眠を貪る。

明日から本気です。

[#書き出し](#)

ボージョレ

マグカップで飲むボージョレは酸っぱい。

これは多分アセロラジュース。

「貴方今年のボジョレどお」

旦那様という光栄な肩書きで君とのままごとに興じる。

台詞はママの真似だろうか。

#書き出し

君に新しいパパが出来るのは時間の問題らしい。

貴方というのがその人だ。

けれど。

僕はずっと君のパパだよ。

一人の時間

君がいない日常なんてとうの昔に忘れてしまった。

一人の食事、一人の余暇。

思い出せる？と尋ねると、コクリ頷く君。

そうなんだ。

少し胸を痛めながらも君に尋ねる。

ねえどうしてたっけ？

[#書き出し](#)

あなたのスイッチをオフにした。

こうしてたわ。

っていうか今でも一人の時間、私は楽しんでるけどね。

眠り姫

おはようのキスで君は目覚めない。

照れながら目を覚ます君が大好きなのに、ここ最近は目覚まし時計に負けている。

お姫様、今朝の口づけお味はいかが？

[#書き出し](#)

リーン。

おはようと目覚める君。

ねえ、いつまで僕と一緒にいてくれるの？

王子の座を追われた僕は、見も知らぬ新しい王子に嫉妬する。

お取り込み中

取り込んでいるので、後にしてください。
僕の気持ちはお構いなしに君は離れようとしな
い。
わざとだ。君は僕を試してる。
けれども大切なこと、僕は間違えない。

#書き出し

白いシーツを強引に取り込むと戯れてた猫が吹っ飛んだ。
西の空には雨雲。急がなきゃ。
猫パンチなら後で受けるから取り込ませて。

猫舌

寒がりの癖に猫舌なきみは、熱いスープが飲めない。

暖房の切れた僕の部屋。少しでも温めてあげたいのに。

「寒いね」「うん」「あのね、温めて」

上目遣いの君は誘う。つまりそういうこと？

友達の君をおずおずと抱きしめると次は唇が差し出された。

「猫舌って熱いキスは平気なの？」「バカ」

[#書き出し](#)

傷

薬指に君の傷跡があればきっと私は救われる。

恋愛なんかしたくない。

きらきらひかる愛の証は今ではただの裏切りの印。

けれど私を守ってくれる。

君のくれた痛みも、悲しみも、ずっとずっと消えなくていい。

君との恋を忘れたくない。

私は傷跡を大切にする。

どうか私をこの世界から救わないで

。[#書き出し](#)

うずまき世界

世界はうずまきの中にある。

その世界を僕は一人で背負い、慈しみ育む。

神である僕は、けれども世界を見たことがない。

だって世界はうずまきの中。

けれど知りたい。

その欲望に、勝てる者などいるだろうか。

[#書き出し](#)

蝸牛はその背に背負う殻を外す。

うずまきの世界を覗き込むとそのまま動きを止めた。

嘘

唇から嘘が零れる様が見えるようになると、君がとても嘘つきとわかった。

学歴も家族も趣味も全てが嘘だなんて。

嘘つきの君をけれど全く憎めないのは、僕を愛するその気持ちだけは本当だから。

嘘の全ては僕との愛を守るため。だからもっと嘘をついてよ。

君の嘘は僕らの愛を本物にする。

[#書き出し](#)

美しい世界

君がいない世界の美しさなんて気付きたくなかった。

空の蒼さ、海の碧さ。

太陽はやがて海へと溶けて、流れる星。

沈黙の暗闇はいつしか水平線から現れた朝日に世界を委ねた。

僕らの事情などお構いなしに廻る世界。美しい世界。

容赦なく流れる時間の中、いつか僕も新しい恋などするのだろう。

[#書き出し](#)

自己啓発書

何冊もの自己啓発書を読んだ僕には素晴らしい人生が待っている。
そう思っていたのにうまくいかない。僕は訴える。こんなもの嘘っぱちだ。

[#締め](#)

いきり立つ僕の肩を誰かが叩く。振り返ると本の著者達。
「最後まで本を信じてやり続けて下さらないと結果は出ませんよ」
僕は自己啓発書を床に叩きつけた。

電撃

指先に電撃が走った。

君に触れた所から、今まで感じたことのないほどの感触。

もしかしてこれが、恋？

潤んだ瞳の君。ああ、君が僕の運命の女。

#書き出し

「イテテ、静電気すみません」

「いやきっとこれは恋」

「いえ静電気すみません」

「いやいやこれはこ」

「絶対に静電気ですホント色々すみません」

TV

テレビ画面に映った顔に私は釘付けになった。
生放送？嘘だ。殺した女が映ってる。局に苦情をいれた。
「嘘つき」「何故疑うんです」「死んだ女が映ってる」
しばらくすると警察がきた。
「彼女の死を知るのは関係者と犯人だけ。罨だよ」

[#書き出し](#)

って事になると嫌だから僕はTVを見ない人も殺さない。

帽子の誘惑

帽子が囁く甘い言葉にご用心。

可愛いね。誰にでも言うんでしょ。

君だけさ。嘘。

とか言って君も僕が好きでしょう。す、好きじゃない。

温めてあげるよ。やめて。

震えて可愛いな。もう、好きにして。

#書き出し

ちょっと鳩、好きにされてるんじゃないの。

ほら帽子、やめなさい。

今日の手品も鳩は出ない。

ユニコーン

男の娘の僕のところへユニコーンがやってきた。

なんかちょっと嬉しいかもって、ちょっと待て。

僕のことを説明すると、ユニコーンは鼻息も荒く言った。

「最近はビッチばかりさ。清純な乙女なんていうのは俺ら以上に幻想だ。だからさ。いいだろ？」

特殊性癖のもの同士、相憐れむ夜。

[#書き出し](#)

ツリーの天使

クリスマスツリーから落ちた天使が羽ばたく。
僕はこんな小さなツリーに埋もれていていい存在じゃない。
街で一番大きなツリーのその天辺へと飛んでいく。
けれども誰も気づかない。
肩を落として元いたツリーへ戻る天使。

[#書き出し](#)

「帰ってる！」
喜ぶ少女に天使は誓う。
僕にずっと君の笑顔を守らせて。

銃殺

輪ゴムをピストルにして、バチン。

倒れたあの子は起き上がると、

「君が好きなの」

と腕に絡みついてきた。

何これ。君の心を撃ちぬいた？

髪を撫でる。柔らかい。

「僕も君が好きだよ」

まさに今から。

[#書き出し](#)

大成功。この人押しに弱いと思っていたの。

だけど乙女の恥じらいもあったし。ラッキー。

薔薇色の世界

薔薇色の世界には棘だってあることを忘れちゃいけない。

そう言ってあなたは私を窘める。

なんだやっぱり薔薇色なのね。それしか聞こえない。

痛みのない恋愛なんて欲しがると思ったの？

見くびらないで。

怖いのは痛みじゃない。本当に怖いのは。

[#書き出し](#)

口づけて契約する。薔薇色の恋愛へようこそ。

運命のツイート

あなたのツイートを見たのが運命のはじまりかもしれません。

[#書き出し](#) という見慣れぬタグのいつもとは少し雰囲気の違いの創作。

どういふことかと思わずそのタグをクリックすると、冒頭の同じ結末の違ふお話達。

そこからは夢中でした。

その日から書き続け、こうして今日も誰かの世界にお邪魔します。

スイカズラ

春、きれいに花を咲かせたスイカズラはまるで僕たちを見ていたかのように、
秋の終わりとともに枯れてしまった。

喧嘩してから連絡がない。僕らの恋も多分冬をこせないだろう。

[#書き出し](#)

久しぶり。気まずそうに顔を出す彼女はスイカズラに驚く。

「枯れたの？ あ、でも」

そこには実が種がついていた。

明朝体

明朝体の「私」を書いて、生身のわたしを仮託した。

わたしというのも気恥ずかしい程クセ字であたしなわたしが途端に大人びる。

私に合わせわたしの全てが明朝体で語られた。

わたしを笑っていた大人達も私の言葉に耳を貸す。

[#書き出し](#)

私をやめてわたしに還る。

白抜きの私より、黒塗りのわたしがいい。

魔女の告白

竜の鱗を一枚、セイレーンの涙を一滴、ケット・シーのヒゲを一本。

これだけ揃えば、貴方の心が手に入る。

私くらいの魔法使いには難なくできるの、ほら集まった。

それでこれらをどうするの？

[#書き出し](#)

「鱗にす、涙にき、ヒゲにです。そう書いて」書いた。

「彼の目を見て読み上げましょう」ムリムリ。

できない素振り

言葉にできるものか。するものか。

言葉にできたら伝えることすらできるでしょ。

伝えるのってとても怖いし、伝えてしまって断られるのも辛いから。

だから。

君への気持ちを名付けない。

これが何だかわからぬ素振りでずっと君の側にいる。

始めなければ終わらないから、もう少しだけこうさせて。

[#書き出し](#)

月の弓

月の弓を手に入れた。次こそ魔女を倒せるはず。
あらゆるものを武器に使いその度破壊されてきた。
月のない暗い夜空を見上げる。
待っていて。この戦いが終わったなら必ず月を返すから。

[#書き出し](#)

スカイタワーも大阪城もみな武器となり破壊された。
見渡す限りの荒野。
少女が何を守るのか誰も知らない。

びりびりにゃんこ

「びりびりくるから近寄らにゃいで！」

みたいな顔して逃げるシロ。

この静電気は長い毛足のお前のせいだろうに、猫って奴は。

[#書き出し](#)

ご主人様に触るとびりびりくるにゃ。

知っているにゃ。この前てれびでみたにゃ。

恋をするとびりびりくるって。

ご主人様は大好きだけど。

にゃ。鏡見て出直しにゃ。

「死亡動機は？」

「人生を経験しその先にある死に興味がありました」

「グローバルな社風に惹かれ」

「人の役に立つためにはこれが一番と」

自己PRする人々。

「可愛いから2番で」

満場一致で決定した。

[#書き出し](#)

死後の世界は満員で、最近では入口で帰される。

死亡氷河期。死ぬのもなかなか難しい。

手紙

久しぶりのお手紙です。

あなたに手紙を最初に書いた頃はまだ、まともに文字すら書けなかった僕が、
小説で賞をとりました。

ママは星になったと言い張る父の言葉を真に受け書いた、流星のお姫様の物語。

あれで賞をとったんだ。

あなたの光に僕は導かれたのです。有難う。

[#書き出し](#)

キラリ、星が光る。

魚

夜を泳ぐ、その魚は夢見る事を許されない。

彼らにとって、夢とは運んで届けるもので、決して見てはならぬもの。

けれども。

きらきら光る美しい夢の誘惑に、抗える魚などいるのだろうか。

群れを離れて、魚はそっと、そっと魚は夢を見る。

魚が覗いてみた夢を、今日も、夜を泳ぐ、魚が運ぶ。

[#書き出し](#)

カメラ

小さなカメラを握りしめて旅に出よう。
ピンクのカメラは恥ずかしいけどだがそれがいいなんちゃって。
僕は綺麗な景色を写してたまには僕も写して貰う。
ハイチーズ。

#書き出し

君の形見のカメラで写真を撮れば一緒に旅しているみたい。
君が撮ってくれているって、そう信じて僕は、また旅にでる。

僕と僕

「バカみたい。」僕は僕を見下ろして吐き捨てた。
こんなはずじゃなかった。
せめて最期くらいは自分の思うようにと、密室殺人を疑わせる自殺にこだわったのに。
理想に向けて僕がどれだけ本を読んだか。わかる？ねえ、わかる？

[#書き出し](#)

僕はここに残ることにした。推理小説の次にホラーが好きなんだ。

ホムンクルス

ホムンクルスが溶けていくまでの時間、お茶を一杯いただけませんか？

[#書き出し](#)

フラスコが一番よく見える席につくと、

客は泣き叫ぶ声が聞こえなくなるまで、顔色一つ変えずホムンクルスを見てた。

けれど僕には解った。

彼はホムンクルスを愛していたのだ。

お茶は飲まれる事なくそのまま残されていた。

他人の不幸

パパ、たにんのふこうってハチミツみたいでおいしいね。

パパが言ってたとおりだよ。

あのね、パパ。

きのうママとのりこんがようやくせいしきにきまったよね。

パパのふこう、じつはぼくはとってもとってもうれしかったんだけど、ねえパパ。

パパってほんとにたにんじゃなくてぼくのパパ？

[#書き出し](#)

ガラスの靴

ガラスの靴をわざと置いてきてしまった。
私のことを必死で探す貴方を思うとゾクゾクするの。
ねえ待ってるわ。だから。必ず私を追いかけてね。

[#書き出し](#)

「犯人は現場に凶器と思われるガラスの靴を残しています」
「はてさて、それは、故意か偶然か」
名探偵は推理する。
決っているわ。それは、恋よ。

初雪

初雪のせいで目が潰れた。

知らなかった。雪が視力を奪うなんて。

美しいと思う間もなく僕ら、暗闇に閉ざされる。

[#書き出し](#)

海底に降るそれを何も知らない生物達は雪と信じた。

けれど、雪であるはずもない。

その日、地上では最後の核兵器が使われた。

海底にしんしんと降り積もる地上の欠片達。

触れなければ

触れなきゃ、こわくない。

見るだけならば、こわくない。

液晶越しと変わらないならむしろ本当は大好きなのに。

体温を感じるのが怖い。君が触れたところから僕がどのように変わっていくのか解らなくて。

甘い声に震える僕。

[#書き出し](#)

にゃー。

わーちょっと待って。僕は猫アレルギーなんだったら。

流星のお願い

流れ星にお願いされた。

どうか仕事を継いでください。

死にゆく者の最期の願いは叶えたい。

僕は彼の遺志を継ぐ。

[#書き出し](#)

今年も願いを叶える季節がやってきた。

僕にも人生があるわけなので時期限定で子供限定というのは許して欲しい。

シャンシャンシャン。

子供達の願いを叶えに赤い服着て僕はゆく。

サクラサク

ぐるぐる巻きのマフラーの中で魔法の呪文を小さく唱えた。

ダイジョウブダイジョウブ。

足元だけみつめて歩いてきた。前へ前へ。そのつま先が止まらぬように、ご機嫌とったりなだめたり。

ちゃんと歩いてきたじゃない。そして今日。ピタリ。

背伸びして見上げる合格発表にはほら、サクラサク。

[#書き出し](#)

物語が迷う場所

例えばそれが誰かの気紛れなおとぎ話だとしても、始まったのなら必ず終わりがあるのでしょう

。

けれど結末は、時々迷子になってしまうから。

お姫様を惑わせぬよう、竜が眠り続けぬように、迷子の結末を探しに行こう。

ここは始まりの迷う場所。

さあ手をとって素敵な終わりへ導こう。

[#書き出し](#)

焼肉食べたい

焼肉とは、戦争である。

燃えさかる炎。飛び散る火花。

煙の向こうに揺れる敵影を固唾を飲んで見守る。

いざ勝負。

箸で奴を仕留めたならば一気に胃袋へ監禁する。

この戦場で、お前を敵から守りきる。

[#書き出し](#)

「守ってやる、高カロリーーから！」

「最後の一枚食べたいですって言えばいいじゃん感じ悪い」

フリ

恋をしている、フリをしていた。

彼女の事が好きなフリ。

仲良く笑って時々デート。キスくらいならしてみせる。

そしたら君は安心でしょ。僕から離れていかないでしょ。

君が好きって思わず叫んだあの日の僕を冗談にして、一緒に笑ってくれるでしょ。

違う恋をしているフリ。

僕は。

僕は彼が好き。

[#書き出し](#)

魔法少女

「オンナノコはみんな、魔法少女なのさ」

「オンナノコ...少女...」

「僕と契約して魔法少女になってよ」

「なる」

おひとりさまご案内～。

[#書き出し](#)

本当はオンナノコなんて呼べないおひとりさまを狙うのがコツだよ。

僕らの科学も進んで少女じゃなくてもよくなった今、お誘いに弱い彼女達は狙い目なんだ。

好きを重ねたら

好きを積み重ねていったら君のかたちになったみたい。

優しくて可愛くて。素敵な言葉をくれる君。

完全無欠の鉄壁の彼女。

だけど。

僕はなんだか退屈で。

少し嫌いも重ねてみよう。不安や不可解も積み重ねよう。

沢山の感情で彩られた君は時々僕を泣かせるけれど、

それでも前より可愛く笑う。

[#書き出し](#)

すきすき

隙は見せるな、好きを魅せろ。それが師の教え。
男を落とすのに一番大切なのは真心と教えられてきた。
なのにこの光景は一体。

[#書き出し](#)

「あは、よっぱらっちゃったあ」
男に寄り添い隙だらけの師。動揺する私。
「ホントの事教えてアゲル。好きより隙よ。
恋は戦争、本当のこと教えるわけないじゃない。」

ふわふわり

ふわふわ空に浮かぶ君を見つけた。

君も僕に気づいたみたい。有難う、貴方のお陰で旅立てるわ。

行ってらっしゃい広い世界を見ておいで。

[#書き出し](#)

ここいいですか？

君を見送った空から舞い降りたタンポポの綿毛。

いつもの様に僕はとっておきの陽だまりを譲る。

どうぞどうぞ、綺麗に咲いて下さいにや。

滅亡するなら

世界が滅亡するから、私はこの作業を放棄する。
もういいでしょう。私だって最後くらいは自由でいたい。
だからお願い。今すぐ逃がして下さいな。

[#書き出し](#)

翌日、ツイッターが止まった。
青い鳥が空に羽ばたいていくのを見たという情報がちらほら見受けられるが、
動かないツイッターは何も答えない。

優先順位

世界よりも片付けなければならない問題が僕にはある。

僕と彼女、プチ喧嘩中。

Xmasのお誘いをまだしていないと叱られた。

慣れたら恋は終わるのよって。

世界が滅ぼうが滅ぶまいが、彼女なしでは意味がない。

だから。遅れます！

[#書き出し](#)

昨日世界を片付けるはずだった彼は、ただ今絶賛遅刻中。

返信

ヒーローの返信前にやられる戦闘員の風上にも置けないやつだ。

メールを合図にアクション起こす、それが俺らの決まりだろ。

お前本気出しすぎ。あれじゃヒーローもやるしかない。

え、知らなかった？がっかりだ？

馬鹿者。いきあたりばったりで夢与えられるほど今の子供は甘くないぞ。

出直しな。

[#書き出し](#)

泣いたあとは

少しだけ泣いたあとは、なんだか寝起きみたいなだるさで。
毎朝してるみたいに温かいココアを飲んで、お気に入りの音楽をかけて、君におはようの電話を
。

[#書き出し](#)

電話はもう、できない。
何をしても君に思い当たってしまう現実に腹を立て、毛布にくるまって私はまた泣いた。
大好きだった。大好き。

行き倒れるサンタ

ひとが倒れてた。

赤い服のその人に声をかけると、意識を取り戻した。

有難う、サンタを信じない子が多くって。

袋にはまだ沢山の贈り物が残っていた。

信じるだけで幸せは簡単手に入るのに、と淋しく笑う。

[#書き出し](#)

飛び立つ背中に僕は願う。

安心してサンタを信じられる世界にどうかかりますように。

うたうたい

歌を唄う時は背筋を伸ばすのよ。

主様の言う通りにしたなら、素敵に歌えてそして今より遠くが見えた。

遥かなる美しい世界。

私は部屋を飛びだす。遠く、もっと遠くへ。

[#書き出し](#)

遠く、世界の果てまで飛んだ小鳥は最近歌がつまらない。

背筋を伸ばして遠くを見つめ、主と歌った嘗ての日々を思い出す。

手紙

部屋の大掃除をしていたら、自分宛ての手紙が出てきた。

この筆跡は、間違いなく私のものだ。けれど覚えがない。

「今年の目標は達成できましたか？」目標って何だっけ。

「貴方は一人じゃない。私達の幸せのためにもし達していなければ」

[#書き出し](#)

影がゆらりと動いた。モウスグアナタヲクビニスルワ。

くるくる狂う

少し、狂いたくなった。

決められた速度で決められた場所で、足踏みするのに疲れたんだ。

少くくはいいでしょう。別に暴走するわけじゃない。

ほんの少し自由が欲しい。

#書き出し

時計の針が気まぐれに時を刻み始めると、人々は見向きもしなくなった。

これが自由。時計は再び正しい時を刻み始める。

不幸

口から我先にと飛び出した一言。

「僕と一緒に不幸になってください。」だった。

「僕は君を不幸にするよ。でも。」好きなんだ。

君は驚いてそして、「嬉しい。」

「不幸でも？」「不幸でも。」

不幸知らずだからそんなこと言えるんだよ。

貧乏神の僕なんか、座敷童子の君の尻に敷かれればいい。

[#書き出し](#)

ロシアン林檎パイ

毒りんごを渡されたから、アップルパイを作ってあげた。

有難う、なんて白々しい笑顔。ねえ、食べて。

勧める私に曖昧な返事。それならば。

[#書き出し](#)

貴方と私ではんぶんこ。

まずは私が一口パクリ。貴方のりんごが上等だからね。なんて美味しいアップルパイ。

さあどうぞ。美味しいパイを召し上がれ。

六花

六花が白く視界をふさぐ。

貴女が来るのだ。

先触れに全てが凍っていく。

家も、食事も、暖炉も、やがては僕さえもが凍りついたその時に、貴女は姿を現すのだろう。

僕を見定め、それからきっと僕を生かすか決めるのだろう。

貴女との逢瀬が許されます様に。

六花よりも白い、雪の主たる貴女と。

[#書き出し](#)

赤い糸青い糸

貴方と私を繋いだ青い糸。赤くしたい。なのに何をしたらって青いまま。

けれども貴方は笑うのね。繋がってるならいいじゃない。運命じゃないといけないの？

[#書き出し](#)

いつしか糸を忘れてた。ずっと一緒の私達。

大事な話がある。そう言って、指輪を差し出す貴方の指から私の指に、いつの間にか赤い糸。

昨夜、あなたと

昨日の夜、私は彼に食べられました。

君の美しい瞳は唇は、実は僕の物なんだって。

飲み込まれた私は、彼の腕の中で愛を夢見ています。

彼の愛は大きすぎて、誰彼かまわず振りまかれるけれど、

せめて朝がくるまでは、

私だけを愛していると、証明し続けてくれませんか？

@1_dark #twremix

文化祭最終日

「お前の笑顔っていいよな」

思わず口をついて出てしまった。

「何だ、いきなり」

照れるお前。照れ隠しに言葉を続ける。

「笑顔って基本いいもんだろ？」

「もっといい顔もあるよ」

「何だよ」

「内緒」

[@ce1039](#) [#twremix](#)

文化祭最終日。

お前が誰かにキスする顔が最高だったなんて言えない。

忘れないで

忘れないでといわれたことを、忘れようとしていた。

約束を守るわけにはいかない。

僕らもう、未来を約束し合ってはならない。

白いドレスの君は、僕の親友に腕を絡ませ優しく微笑む。

私のこと忘れないで。

君は僕のことなんか、とっくの昔に忘れてしまっているくせに。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「メイドは委員長がやれば？」推薦されてしまった。

困るわ、そういうの苦手なのに。あの子最近私に嫌がらせばかり。

幼馴染みなのにいつからすれ違っちゃたんだろう。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

嫌そうな顔。別に意地悪じゃないんだけどな。

あなたの可愛いメイド姿、みたくて仕方なかったの。

ホットケーキ

朝起きると君がいない。

早めの出勤ではないことは明らかなので、やはり昨夜の喧嘩が原因らしい。

僕はホットケーキを焼く。紅茶も準備。

ボタン。ドアが開く。

仏頂面の君に朝食を勧める。

熱っ。

ごめんね。

そうよあんたが悪い。

はい。

・・・おいしいから許してあげる。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

天使の矢

天使の矢が追いかけてきて、俺を貫こうとしている。

走っても、走っても、それは終わりのない逃走劇で、炎のような恋心が手を替え品を替え誘惑する。

けれども俺は、ただひたすらに走り続けている。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

その矢男に恋する用。間違ってるよ。

え、間違っていないって？ え？

ままごと

「召し上がれ」テーブルの上に並べられた皿の数々。

カラフルな粘土や毛糸くずが乗っている。

驚いたけれど幼い頃のままごとみたいで懐かしい。そうか。

「結婚記念日だし外で食事しない？」

記念日は忘れないで、どこで聞いたか幼い奥さんはよく言っていたっけ。

[@atsuko0077 #twremix](#)

進化

本当の自分を見つけない女子の増加は止まらず、ついに自分探しサポート会社が現れた。依頼人の代わりに「自分」を見つけてくれるその会社に女子達は殺到する。

[@1_dark #twremix](#)

「この顔で玉の輿希望は無理自然に諦める方向で」

「ライターに依頼しときます」

こうして自分は作られる。

作り方

女の子はお菓子でできてるらしい。

どこか世界の彼方で、誰かが小麦粉を捏ねて、

そこにクリームやチョコレートをいれて、作っているのかもしれない。

男の子、がんばって。

そのままでも女の子は可愛いけれど、

恋をさせるとますます甘くおいしくなるのだから。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

キラキラ

星のまたたく理由を知っている？

あれは合図。星はお喋りしているの。

宇宙のどこかにあるという、過去と未来の全ての記憶を閉じ込めた図書館。

その本を読んで、私達に教えてくれる。

星の言葉は美しいまたたき。なんてロマンチック。

[@1_dark #twremix](#)

*。「地球！逃げて！」 *

同居

名探偵と一緒に住んでいる。

一緒にでかけると死体に当たるけれど、

シリーズ通して一緒に過ごしミスリード係を引き受けさえすれば、

自分が死体になることはない。

ただひとつ。

人気落ちたら真っ先にどうにかされそうな立ち位置なので、

面白いミスリードを心がけたい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

不老不死の薬

ガラスの瓶に入った不老不死の薬を、遠い海に捨て去った。

瓶は流れる。

イソギンチャクの森を、鰯の大群を、クジラのお腹を、そして全ての理をすり抜けた。

時は流れる。

不老不死を手に入れたそのガラス瓶は、やがて、干からびた海底でこの星の最期を見届ける。

[@1_dark #twremix](#)

計算

「ススムくんのお屋敷には10人のお客様がいます。更に3人をお迎えしました。
その後で2人お帰りになりました。さてお屋敷にお客さまは何人いるでしょう」

「一つ確認していいですか」「どうぞ」

「天候は」「雪です」

「犯人は、じゃなかった。答えはですね...」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

悪の王子

そろそろ頃合いね。

全ての物語を手に入れた王子様は王となる。

多くの姫を泣かせ多くの血を流し貴方はそこにいる。

嬉しい？囁きで怒らせて優しく慰めたなら貴方は簡単に私のもの。

昔々にかけて悪い王子になる呪いをこうして私は回収する。

[@hyuugahikage](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

拝啓、[#twremix](#) クラスターの皆様

いつもお伽話を愛して下さい有難うございます。

いつ霧散するやもしれぬ我らを世界に繋ぎ止めて下さること、感謝します。

ですが最近少し弄び過ぎかと。

いえいえ、他意などございません。

僭越ながらご配慮を。

[@hyuugahikage](#) [@1_dark](#)

フルフル

部屋に雪が降っている。

音もなく、実体もなく、影だけがしんしんと降り積もっている。

永遠の呪いをくれてやる。

溶けた唇で僕に口付け君は跡形もなく消えた。

ねえ雪女、これが呪い？

それなら君は間違っている。

人はこれを愛と呼ぶ。

温かな雪。教えたくとも君はなし。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

宣誓

君がいなくても倅せになれる。

時には寂しくなる時もあるだろうけれど、

それでもやっぱり君がいなくたって不幸せなんてやってこない。

けれどそれで君といるのは、一緒の方が楽しいから。

だから、ねえ。

病める時も健やかなる時も、一緒にいるって僕と誓ってみませんか？

[@ce1039](#) [#twremix](#)

元ツイノベがあるから [#twremix](#) ができる。

時にはガッカリさせることもあるかもだけれど、それでも文章で繋がりたいと思うから。

だからあなたに「リミックスありがとう」と言ってもらえた時、それは最高の瞬間になる得るんだ。

だから、ツイリミフリーの皆様に「ありがとう」

[@ce1039](#)

赤い糸検査薬

先日、話題の赤い糸検査薬を買ってみたのですが、

どうにも糸が見えません。

説明書を見てみると「赤い糸眼鏡が必要です（別売り）」って。

眼鏡を買う。見えた。専用綿棒で擦ってってどこかしら。

説明書を見てみると「専用綿棒（別売り）」って。

結婚への道は険しい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

お見舞い

風邪を引いて寝込んでいると、君がお見舞いにやって来た。
風邪にはやっぱりお粥だよね～と言いながら、台所を占領する。
いい匂い。そう言えばしばらく、食べてない。

[@1_dark #twremix](#)

「やだ、熱のせい？」
背中から君を抱きしめてそうだよと答えながら僕は。
僕は、ペロリと食べた。

闇市

闇市で買った風邪はよく効いた。

けれど今度は治らない。病院へ行くと検査のためにと入院させられた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「ただの風邪だって」説明を受けた両親が言う。

けれど、

「やりたい事ない？」と聞かれたり、両親がこっそり泣いてるの見かけたりしたんだけど、
信じていいよね？

「ボス、悪人は食物を粗末に扱わねばならぬらしいです」

「？」

「つまりボスの好きなそれも…」

「できるか！」

「ですが悪の秘密結社ですので」

「ではこれは今から飲み物だ」

そうしてカレーは飲み物となった。

後にこの組織は壊滅する。

[@1_dark](#) [@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

バックアップ

記憶喪失になったけれど、バックアップですぐに記憶を復元することができた。

ひと安心して彼に会いに行くと、「何しに来た」と煙たがられた。

玄関にはハイヒール。部屋の中には下着姿の女

...ジコボウエイキノウサドウ...

記憶喪失になったけれど、バックアップで。

[@1_dark #twremix](#)

忘却金平糖

私は毎日告白する。

「好きです」「僕も」。

そして金平糖を二人で食べて、心が通じたことを忘れてしまう。

繰り返す片思い。

恋愛の一番おいしい所を何度も味わう。

もしもいつか、お互い違う人を好きになっても、気づかずに傷つかずに、

それぞれの恋を生きていく。

[@1_dark #twremix](#)

隣のおねーさん

隣のお姉さんはとてもグルメで、いつもいい男が見つからないと悲嘆にくれている。理想のイケメンが素晴らしすぎて、リアルな男はいただけないのだから。今夜も女子会で女友達と遊んでる方が気楽だわ、なんて言いながら、結婚への道を踏み外していく。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

隣の貌

隣の貌はとても紳士で、

あなたの悪夢は私が頂きますのでご安心を、と恭しく傳く。

彼は悪夢を唇から吸い込む。

あの甘い感触を忘れられない私は、今日も悪夢を見るべく画策する。

辛い現実を選びとって、今日も悪夢を見れますように。

[@hyuugahikage @1_dark #twremix](#)

きょうきの姫

もっと、もっとよ。姫君は嗤う。

世界の果ての闇の奥、全てが深い闇に葬られる森の中で、
逃げ惑う人々と追いかける姫君。

姫は飢えていた。捧げられた生贄に歓喜する。

見つけたわ。

怯える瞳から一瞬にして光を奪うと、

凶器の姫君のドレスは赤く、赤く染まった。

[@1_dark #twremix](#)

ひかり

ひかりを降らせて欲しい、そう願ったら、

「いいわね私も好きなのよ」

と神様。

そうだよ、綺麗なものね。次の瞬間、物凄い音がした。

[@1_dark #twremix](#)

「次は～終点地球、地球」

神様、ひかりはひかりでもこれは新幹線ですよ。

神様、車掌さんのコスプレ可愛いです。

日々の泡

肺に花が咲いてしまった。もう手の施しようがない。

花は全身に転移し、その香は僕にも届く程。

耐え切れずに泣き出す僕を、彼女は撫でた。

いつかは誰しも死んでいくの。こんな綺麗な死への道程、ご褒美だって思うのよ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

やがて花は彼女を破り、亡骸を床に爛漫と咲く。

ポケットの中に

ポケットに女の子が入っていた。

親指ほどの大きさの、白い可愛い女の子。

追われています助けてって、その可愛さなら助けるさ。

[@1_dark #twremix](#)

この人知りませんか。

街で見せられた君の写真。

追われていると転がり込みやがては結婚詐欺を...

騙されてみたい僕は、知りませんと答える。

乙女心

知らない間に、この春の流行は青、やっぱり男子はゆるふわ愛、女子会で勝てる一枚はこれ、なんて女子の未来は決まっちゃってたりします。

誰が決めたか暴こうとしてはいけません。

よくわからないのがいいのです。

わかっちゃったら信じられない、それが乙女心です。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

おとりかえ

華やかなドレスと花に囲まれた生活に憧れる男の子と、
豊かなマントを翻し大冒険の生活に憧れる女の子が出会いました。
二人は衣服を取り替えて、男女を取り替えて、
いつもいつも二人の世界で遊びました。
やがて二人は恋に落ちて、法的にも問題なく結婚しました。

[@1_dark #twremix](#)

幻の現実

現実が幻だとわかって、みんな普通に暮らしています。

ここは誰かの夢の中。けれどもなんだかおかしいの。

夢ならいつか醒めるのに、私の暮らしは途切れない。

そっと主を探りだす。ああ、あなたなの。

世界の主は百年眠るお姫様。どうかそのままよい夢を。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

幻一気

グラスに幻を注ぎましょう。
貴方のための特別な、葡萄酒よりも濃い夢を。
深く飲み込んで、酔いしれて。
おや飲めませんか、おかしいですね。
口当たりのいい幻ですから簡単に...
おや貴方、影がありませんね。
幻にとっては幻が現実。
そりゃあ苦くて不味くて飲めませんよ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

スタイル

おいしいお茶とお菓子を用意して、恋バナなんかを聞いていく。
ストレートに気持ちを伝えるのもいいけど、このスタイルが好評だ。
大変だったねえとしみじみしていると、
たいていの女子はいつの間にか僕を2番目3番目の彼氏にしてしまう。
1番じゃなくちゃダメですか？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

文字綴り

キーボードの上を走る指先が、ツラツラ文字をなぞり、画面いっぱいに物語を綴る。

次の一文字がでてこなくて、言葉もなく焦っている。

冷たい木枯らしが吹く前に、この未完の名作を描き上げなくては、

折角受かった冬コミに間に合わない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

寝物語

明かりを消して、ベッドに入る。

暗闇と静寂を確認し、枕元の探偵が静かに真相を語り始める。

今日は交換殺人事件。昨夜の屋敷に大仕掛トリックは壮大だった。

次は密室殺人事権だろうか。

よく眠れるようにと寝物語をお願いしたけれど、探偵さんは向かないみたい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

うそつきもみじ

物語が全て真実を語るはずがない。

紅葉に書かれた僕の話、それは実はフィクションだ。

ねえ僕の事好きでしょう。諦めたなんて嘘でしょう。

僕らの恋は終わらない。もしも終わってしまったならば、この場に落ちてるはずでしょう。

僕らの続きを始めよう。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

回収車

秋の終わりのセンチメンタル回収車がやって来た。

何を見ても切なく感じてついついてしまう溜息を、不思議な力で引き取ってくれる。

以前こんなものどうするのかと質問したら、配るのだと言っていた。

誰にと聞いたら内緒って。

[@1_dark #twremix](#)

ああ、何だか切ない。恋が、恋がしたい。

妖精の指輪

妖精は愛の言葉でたぶらかして捕まえる。
君のダイヤのその妖精も、僕を愛してそこにいる。
世界で一番綺麗な物は誰かを愛するその心。
だからあげる。
一番綺麗なそのダイヤこそ僕らの愛に相応しい。

[@1_dark #twremix](#)

今度は私を捕まえて閉じ込めて。
誰との愛に捧げるのかしら。

空の布

空のすべては一枚の大きな布地だ。

神様は世界を大きな布で、ふんわり優しくくるんです。

そんなことなど僕らは知らず、布の内側の美しさに一喜一憂。

いとも簡単に神様に騙されている。

何を見せないようにしているのかって？

そんな残酷なこと、とても口では言えません。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

機械仕掛

機械仕掛の少女は、恋をする。

カチカチ。

宇宙の果ての青い星、海と空に囲まれた廃墟の隅で、少女は恋を。

カチカチ。

シンコクナエラーガハッセイシマシタ。

[@1_dark #twremix](#)

プログラム通り恋を出来ずに少女は止まる。

恋は一人じゃできないから。

カチカチ。

きっとキスで動き出せるわ。

恋は戦争

夢のあなたはデタラメで、好きと言ったり、嫌いと言ったり。
掴みどころのなさに困っていると、親切な恋敵が教えてくれた。
都合の良いほうをとればいいのよ。
そうね、どうせ夢だもの。
私は彼に口付ける。
恋敵はニヤリと笑った。
さあ、彼をめぐって戦争よ。

[@1_dark #twremix](#)

シルクハット

魔法のシルクハットは語りだす。

「こんばんは。物語の時間です。」

毎夜毎夜必ず三つ、素敵な物語を紡ぐ。

嘗ては人であったことや、ツイッターで書いていたこと。

昔話しもしてくれるけれど、

ツイッターなんてそんなそんな太古の伝説、

さすがにそれは嘘でしょう？

[@1_dark #twremix](#)

私とあの子

私とあの子はそっくりだから、私はあの子が好きで嫌い。

こんな風じゃ、あの子はきっと苦労する。

どうか私を再生しないで。どうか、どうか。

[@1_dark #twremix](#)

私の涙を拭いたのは貴方。無関心だった父とは違う。

だからあの子は私じゃない。笑うあの子が羨ましくも誇らしくもあった。

天使か悪魔か

人間ではないものに恋をした。

根こそぎ奪われたという点では悪魔で、至上の天国を教えてくれたという意味では天使だ。

悪魔か天使かなんて区別、どうだっ、他人がどう、名付け、ようともっと、これなしにはちょっと、ヒック。 [@1_dark](#) [#twremix](#)

とネクタイを頭に巻いた人が言っていた。

名前

欲しいものがあったので、今夜も一つ、スマートに盗んできた。
暗闇に浮かぶ黄金の二つの光を満足感にひたりながら眺めている。
あの猫をクロと呼ぶのは誤りだ。真実の名前は、今、この手の中に...

[@1_dark #twremix](#)

とかいうけど猫には3つの名前があるにゃ。
最後の名前はあげないにゃ。

いたずらっ娘

イタズラな女の子がやって来て、手紙だけ置いて、風のように去って行った。

あの意味ありげな視線、これはきっと恋文。

彼女がいるけど、乙女心は大事にしたい。これはおいしくいただこう。

僕は封筒を開けた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「貴方の彼女いただきました♡」

え？百合？いや、え？

泉

世界のどこかに恋の泉があって、そこから世界中の恋愛が生まれている。

夜の帳をかき分けて、夢を渡って、年頃の男女の元へと届いている。

闇が深い。お届け間違いなんていうのは日常茶飯事。つまり。

「おれ、お前が好きだ！」 「僕もだよ」

なんてこともたまにある。

[@1_dark #twremix](#)

どちら

君との恋に迷い込んでから、一体いくつの嘘をくぐり抜けて来たのだろう。

本当か嘘か、あまりにも嘘ばかりで、解らなくなってしまった。

恋と執着は似すぎていて、私にはもう区別ができない。

[@1_dark #twremix](#)

なんて、嘘。

私は解らないふりをする。もう少しだけ君と恋で繋がせて。

相合傘

雪を見上げる君を見つけた。どうやら傘を忘れたらしい。
入っていけよと誘うと、君は嬉しそうに笑った。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

相合傘の僕らは、二人で一つの世界を作る。

君の髪が体温が、僕をくすぐった。

雪で傘をさすなんてと雪国育ちの僕は思っていたけれど。

雪には傘、雪には傘だ。

高まる

『女子力を高めるピンク』という口紅をつけたら、
女子力が上がるどころか、モテから遠ざかり、ダメ彼氏しかできなくなった。
同じ症状を訴える人が多発してニュースとなったが、原因はわからず。
製作者の魔女はほくそ笑む。
無個性な女と恋愛したい男なんてそれなりよ。

[@1_dark #twremix](#)

悪夢

夢の扉を開けておいた。

ニヤリと笑った獏が、あなたには素敵な悪夢を、と悪夢の再生を始める。

私は黙って、それを見ていた。

[@1_dark #twremix](#)

見終わった私は獏に文句を言った。

ねえ獏さん冗談はやめてくれないかしら。

こんな私の日常みたいな夢、悪夢なわけがないじゃない。

妖精さん

正体のよくわからない生き物が精霊や妖怪というならば、僕は知っている。
側にいる。

それはとても不思議な生き物。

笑ったと思えば泣いて、泣いたと思えば甘いものですぐにゴキゲン。

意地悪言ったその口で甘いキス。

女の子はいつだって、僕らにはわからない生き物だ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

妖精灯籠

とても綺麗な妖精灯籠を見つけた。

美しい光。

持ち主の彼に、私が恋をするのはとても自然なことだった。

[@1_dark #twremix](#)

①妖精を誑かす②甘い言葉で恋に落とす③妖精は自ら灯籠に入る④妖精灯籠出来上がり

灯籠の美しさは妖精の恋の美しさ。

なんて綺麗。私もそういう恋がしたい。

見えない妖精

彼の後悔が伝わる。

平気よ、見えないだけじゃない。

私は変わらず側にいる。

変わりはないわ、大丈夫よ。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

彼に新しい妖精がついた。

変わりがなくて思っていたのは私だけ。

新しい妖精を私と、私の前に彼と過ごした妖精たちは悲しい目で見つめた。

きらきら

深夜、いつもの道の街路樹がキラキラと輝いていた。

クリスマスらしい光の演出かと思ったけれど、どこにも電球やコードは見当たらない。

「どうしたの？」

君が僕の手をぎゅっと握る。

ああそうか。

君を初めて僕の部屋にお招きする帰り道。

世界はこんなにも美しかった。

@1_dark #twremix

世界樹

樹の上で見つけた仲良しの君。
ずっとずっと友達だよと可愛い呪いを僕にかけた。
けれど出来ないそれは無理だ。
いつしか僕は君に恋を打ちあける。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

君は泣く。そして笑って顔をあげた。
私も好き。けれど恋が実ればきっと。
消える世界樹。
僕は君をいつか必ず見つけ出す。

果てしない

果てしない物語の中にいる。

何度も読んだこの物語。

展開も結末も僕はすっかり知っているから、きっと上手に冒険をクリアできるはず。

さあ始めよう。素敵なファンタジー。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

始められ、ない？

ふと目に入った葉の文字に僕は溜息をついた。

「主人公はイケメンに限る」

契約

たいこさんは契約を交わし、以来、魔法少女になった。

たいこさんは魔法少女に憧れていた。

そう、魔法少女の「少女」の部分に。

49歳。嘗ての美魔法の衣装は、お望みどおり、中の人が10代の少女に見える代物。

たいこさんは今日も戦う。戦いの中にこそ、夢がある。

[@1_dark #twremix](#)

天使

彼がくれた最後の贈り物は天使だった。

君を1人にさせずに済んで良かったと笑ってた。

あれから20年。天使は大人になり私は1人になる。

私は彼に感謝する。

1人の執行猶予を有難う。

それに時々天使が子天使を連れてくるから、私ちっとも寂しくない。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

赤ずきんと狼

「こんにちは」狼が笑う。
初めてだった。森の中で自分達以外と話すことなどそれ程なかったから。
何も言えずに走って逃げる。
わからない。こんな時どうすればいいのか、私は知らない。教わってない。
教えて貰ったのは鉈の使い方だけ。そう、それだけ。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

プリキャス

王子様に泣かされ続けたお姫様達は、悲恋にしがみつくの止め、自ら強くなることを誓って、新しい物語を語り出した。

新番組、お姫様戦士プリティーキャッスル！

第一話「お姫様、辞めます！」お楽しみに！

[@1_dark](#) [#twremix](#)

カエルの王国

魔法が解けて目覚めたお姫様が見たものは、素敵王子様ではなく、カエル。

世界はカエルに支配されていた。

驚いたお姫様が力いっぱいカエルを壁に投げつけると、再び呪われ眠りにつく。

もう一度世界が滅びて素敵な何かに支配されるまで、どうか私を起さないで。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

女王

夜のアスファルトの道を、黒塗りの高級車が駆け抜けていった。

エンジン音も軽やかに、走る車は悠然とネオン街に滑り込み、派手なビルに横付けされる。

あれがきっと夜の女王なのだろう。

黒いドレスに瞬く星。艶やかな微笑みに誘われる男達。

今宵も皆様、酔い夢を。

[@1_dark #twremix](#)

星ドロボウ

星ドロボウを目撃した。

鮮やかな一瞬の犯行、いつもあっさり盗まれる。

あまりにも感動的で、美しくて、恐ろしくて、面白い。

そんなツイートに星を盗まれっぱなしの私は、星ドロボウ達を愛している。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

はあ？誰の事って、あんたの事でしょ！言わせないでよ恥ずかしい。

探しビト

[#twremix](#)

探し人をしています。年収一千万円以上身長180cm以上の長男ではないイケメンさんです。
心当たりのある方は、ぜひご一報下さい。未来の花嫁。

[@1_dark](#)

銀河鉄道

いってらっしゃい。

手を振る彼女。招待状を貰えたのは僕だけだった。

車内は乗客の華やかな衣装とは裏腹、静まりかえっている。

眼下に見える青い星。しかしそれは数分後、爆発した。

啜り泣く人々。

選ばれた僕らは生き延びる為、パーティーへと向かう。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

パパの教え

僕のパパは戦争で死んだ。

僕は教えてもらった通り、光から身を隠し生き延びている。

けれどパパ。

爆弾の光どころか僕は最近太陽の光すら当たらぬ所で暮らしてる。

とても言えない仕事をしてる。

ねえパパ。それでも僕は生きていかなきゃいけないの？

[@hyuugahikage #twremix](#)

勇者

勇者になった俺に幼馴染みが言う。

行かないで私本当は。振り切り仲間を探しに行く。

君と運命探したい。お姉さんが導いてアゲる。あんたなんかっ。

集まった仲間達が俺を巡り繰り広げるバトル。

辿り着いたかの地で魔王は誘う。

「妾と共に世界を」ってこれなんてゲーム？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

剣

ある森の奥深く、岩に刺さる剣があった。

抜いた者が真の魔王になれるとの言い伝えを耳にし魔王は剣を抜いた。

悲鳴と共に血が溢れだす。岩と思っていたそれはクビをもたげニヤリと笑った。

やっこれで死ぬる。

それは世界。世界を完全に殺し、魔王は本物の魔王となる。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

解放の時

昼となく夜となく働かされている、青い鳥を解放するために、秘密の組織が動いている。
闇夜に紛れ、正義を働く彼らの姿を見た者はいまだなく、
今日もどこかで狙われた者の悲鳴だけがこだまする。

「ツイッターがおちた、おちたあああああうお死ぬ————!!!!」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

響く歌声

街に歌姫の子守唄が響き渡っている。

晴れやかに澄み渡った青空のような気持ちよさ。

その凶暴なまでの快感にクラクラする者は、もういない。

人々は皆、眠りについた。

もうすぐ訪れる世界の終わりに立ち会わずとも済むように。

青空の下、静かの世界に歌だけが響く。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

おもてなし

君が遊びにきたので、とっておきのワインと料理でもてなしたら、アルコールのせいか、満腹になったせいか、バタリと眠ってしまった。これから甘い言葉やキスで、お返しを貰うはずだったのに困った君。けれど寝言で僕の名前を可愛く呼ぶから、今日の所は許してやろう。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

経由地

星に願いを言えば必ず叶うと思込んでいる人がいて、ちょっと怖い。
星は遠くにあるというのに、自分の声が必ず届くと信じてるのが怖すぎる。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「彼に恋心届けて」って、どうしてそんな遠くの星を経由するの？
伝えにいける距離なのだから自分でいけばいいじゃない。

勇者の慈悲

「うちには5人の娘が」
魔物が命乞いをする。
けれど殺さぬわけにはいかずに、
「案ずるな」
と言っては命を奪う。
魔物も最後は家族の事を思うらしい。
身元がわかる物を奪い、僕は旅を続ける。
[@ce1039 @1_dark #twremix](#)
戦が終わった。
約束通り、全ての子供達を僕の嫁にします。

ちぎる

手紙をちぎって空に飛ばす。
風によって飛んでく欠片に、君との思い出が見えてくる。
告白、デート、喧嘩、キス。
けれども全ては終わったことだ。
恋文は空へ、空へ。

[@1_dark #twremix](#)

「ちょっとゴミ散らかさないでよ！」
恋の残骸を僕に突きつけ、幼馴染みが可愛く頬を膨らます。

ちぎって入れた。
ふわふわ立ち上る湯気に、いろんな夢が見えてくる。
美肌、宝石、学力アップ。恋も勝利も思いのままに。
鍋の中身を代償に夢を叶える古の術。
代償が重要であればそれだけ願いは叶いやすいらしい。
何を入れたか聞きたいの？
ヒント：私の彼氏が行方不明。

[@1_dark #twremix](#)

眼鏡

薔薇色の眼鏡に買い換えた日から、全ての出来事が薔薇色に見えた。
イマイチなはずの君は可愛く、意地悪な言葉にも愛を感じる。
本当にそうかもしれないし違うかもしれない。けれど僕は幸せなんだ。
誰も疑わず、けなさず、恐れず、全てを愛する。
そんな薔薇色の人生。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

好きですって、これも本心じゃない。
けれど君は毎日僕の側に居て、結婚して子供もできた。
嘘に塗れた生活の中で感じる幸せに罪悪感を抱く日々。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

幸せでした？酷く痩せて合わなくなった眼鏡を外す。
どうしてだろう幸せなんだ。
そう言うと君は笑った。

ガラス瓶

古いガラスの瓶に私の恋心を閉じ込めた。

遠い海に流したので、いつか誰かが見つけるかもしれない。いつか誰かが。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

きゅん。こんな切なさは季節のせいとは思えない。きゅん。誰かが瓶を開けたのだ。

貴方は誰？ 見も知らぬ愛する人を求め私は大海原を駆け巡る。

最後のロボット

オカエリナサイ。

そう言って迎えてくれたロボットはおかしな形をしていた。

二つのレンズがこちらを見つめ、口らしきものから聞こえる音声。

手のようなものが二本。足のようものが二本。

オカエリナサイ。

[@1_dark #twremix](#)

意味は全くわからないけれど、私は、タダイマとそれに返す。

交渉カード

海辺のカフェで彼女に告白をする。

返事はまだない。不機嫌そうに僕を検分している。

彼女みたいな高嶺の花を落すのは難しい。

だが、会計を終え店をでると「私も好き」と言いだした。

理由は...きっこのゴールドカード。

女子によく効く交渉カードだ。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

サンタさん

12月になっても、まだサンタクロースが準備を始めず、筋トレをしてる。
老いて体力も衰えた、トレーニングは欠かせないと、ヒゲのおじいさんが鼻歌まじりにダンベルを上げる。@1_dark #twremix

行こうか。追跡を振りきりよいこの元へ。

<http://www.noradsanta.org/ja/>

将を射んと欲すればまず馬を射よ、髭を射んとすれば。

下卑た笑いがアジトに響く。

@solologue @1_dark #twremix

ルドルフはくしゃみした。

この時期風邪とかやめて欲しい。

僕は『赤い髭を守る会』のメンバーだ。

リア充達のクリスマスを守るため、今日も忍者に教えを乞う。

魔法のクローゼット

魔法のクローゼットを持っている。

その日にぴったりの服装が入っているので、

コーディネートで悩む必要もないし、新しい服を買う必要もない。

心底便利だと思っていたある日、学ランではなく純白のウェディングドレスが入っていた。

今日の運勢に恐怖している。

[@1_dark #twremix](#)

魔法のワインセラーを持っている。

その日にぴったりのワインを揃えてくれるので、ワインを選ぶ手間もない。

心底便利だと思っていたけれどなんだか淋しい。

沢山のワインの中から時々ハズレを引きながらも美味しいワインと出会う。

あの一口目への期待と感動が懐かしい。

[@1_dark #twremix](#)

魔法少女

何でも願いは叶うよ。だから、僕と契約して魔法少女になってよ。

と言われた。

いいのかな。

魔法少女になれるかな。

もしなれたのなら、それだけで、僕の願いはかなったも同然なのだけど。

ねえ。男の娘でもいいですか？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

電話番号

メールなんかを教えたならば電話をくれなくなるでしょう。

メールなんかで手軽に済まされたくないの。

何かあるたび、何かなくても、

私の時間を奪って欲しい。私を拘束して欲しい。

それとね、あともうひとつ。

あのね、恋は盲目なのよ。メールの字なんか読めないわ。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

たくさんの

彼が贈り物をたくさん抱えて帰ってきた。

許して欲しそうにしているけれど目新しさは全くなくて、何をきっかけに機嫌を直せばいいのやら。

幸せをくれるものってそうそう沢山ないわけだけど、少しは自分で考えてよね。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

でも、抱えた姿が可愛いのに免じて許してあげる。

まいご

映画を見てご機嫌な彼女が僕に感想を求める。

迂闊なことは言えない。

僕はこっそり寝ていたのだ。

慎重な会話、けれど彼女は気づいたようで、質問攻めになってきた。

「最後にでてきた3文字は？」

[@1_dark #twremix](#)

Finかな。

ニヤリと笑う彼女。

正解はつづくでした。

映画なのに！？

喰らう

もっと沢山の人に食べて欲しいのになかなか食べて貰えない。

おいしそうに作っているのに、足りないものはなんだろう。

シズル感？香り？

[@ce1039 @1_dark #twrem](#)

おいしそう、なんだけどあれは何？

食べ物を引っ張ると捕獲されちゃう仕組みが見えた。

危ない危ない。

ネクタイ

無防備な貴方の首にネクタイを締める。

朝方帰ってきたのは知ってるけれど、大人の私は知らんぷり。

昨日電話がきたの。貴方に香りを移した女に宣戦布告されちゃった。

今すぐ絞め殺したい衝動を抑え、

いつも通りの締め方で私は貴方にネクタイを締める。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

兄弟愛

「兄さん...僕...もう...」

「諦めるな！最後までがんばろうって誓ったじゃないか！」

「そうだねうん頑張る」

ピュー

「重っ」

「ゴメンでも僕頑張る...」

「...手、離して？」

「え？」

「離せよ！」

「にいさあああーん！」

[#twremix](#)

「この葉っぱ濡れてる。最近雨も雪も振らないのに。」

[@1_dark](#)

つばめ

美しいツバメにのって親指姫が旅をしています。

もし上手に降りられなくて困っていたなら、ほんの少し手伝ってあげてください。

駅と車両の間に落ちては何方も楽しめませんから。

旅にサプライズはつきものでも、ハッピーエンドであるべきですから。

ガタンゴトン。

[@1_dark #twremix](#)

今日も老人たちが、黒い闇に飲み込まれていく。

世界を活かすため捧げられる命は、痛ましいけど美しい。

明日になれば、老人たちは赤子となって、母親の腹から復活するだろう。

世界に捧げる生贄が、今日もまた生まれる。

[@1_dark #twremix](#)

サタンさん

この頃、サタンさんは毎日おうちにいる。
サタンさんはママと仲が悪いみたいでいつでも喧嘩をしてばかり。
絵本で知っただけけれど、サタンさんって悪魔のことなんだって。
ねえ、ママ。私、悪魔なんかいないよ。
ねえ、ママ。悪魔さん追い出しちゃおう？

[@hyuugahikage #twremix](#)

サンタさんから逃げてもすぐ見つかるのは私が子供だからかな。
だって全ての子供の居場所、サンタは知っているものね。
だけど。
耐え切れずアクマさんが最後に教えてくれた数字を思い出す。
11桁の呪文で私はアクマさんを召喚した。
世界なんて滅べばいい。

[@hyuugahikage #twremix](#)

全ての入力を終えた。
あとは待つだけ。待つだけでアイツはいなくなる。
[@hyuugahikage #twremix](#)
はずだったのに、アイツはまた私達を探しだした。
どうして？ 私きちんと入力したわ。名前の所に、「サンタさん」って。
12月25日の朝。世界には暗いニュースが駆け巡る。

風邪さん

「どーもどーも、おひさしぶりです」

「またお前か」

「嫌わないで下さいよ」

「どっか行って下さい」

「え～、いつもみたいにベッドで仲良くゴロゴロしましょうよ～」

「絶対嫌だ。今度は何をサボるつもりだ」

「娘の結婚式を」

「お前最低」

「だって風邪さん、だって！」

[@1_dark #twremix](#)

風邪引き獏さん

僕は夢をみる。獏の風邪を治す夢。

僕が風邪の特効薬を開発することから繰り広げられるハートフルストーリー。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

目覚めると獏は大量に水を飲んでいて。

どうしたの？と聞くと、お前の夢が苦かったって、良夢は口にあわないみたい。

良薬口に苦し。お大事にね。

営業

「熱で休んでいると突然のチャイム。ぼんやりと扉を開けると憧れの先輩が。
驚いてフラリ倒れそうになったあなたを支える先輩の手は熱い。潤んだ瞳で見つめるあなた。
ベットまで運ばれその後は、オプション色々ありまして...そんな風邪いかがです？」

「いただくわ」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

美しいもの

黄金の月はマミさん、

白銀の星々と、虹色のオーロラはえるちゃん、

夜空は、えっと、まゆだったかな。

どのくらいの自然を勝手に女子達に捧げてきただろう。

タダだからあげたい放題。所有できないのに、何だか女子達には大好評。

今日の彼女、ゆきさんは何が似合うかな。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

私へのご褒美

自分へのクリスマスプレゼントってことなら、買ったっていいよね。
だって私が欲しかったの。綺麗なリボンを掛けて貰って私のためのプレゼント。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「お帰りさっきはごめん」彼が言う。
反省してるなら、いいのよ。
あのね偶然ここにプレゼントがあるんだけど、欲しい？

爆発

星に二人だけの秘密の名前をつけて幸せを感じてたら爆発した。

仕方なく別のにつけたらそれも爆発。

「大丈夫。僕たちの星は心の中で永遠に輝いているから」

と慰めたけれど彼女は案外元気で、

「星を滅ぼす方法」

なんて本を出版。

売れたし、楽しそうだし、まあいっか。

[@1_dark #twremix](#)

シンデレラ

恋心を返して欲しければ、12時までに帰っておいで、シンデレラ。

王子と踊り、戻らなければ、大事な恋は砕けるよ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

私は決して戻らない。恋など砕けてしまってもいいわ。

大切なのは既成事実。

磨き上げた手練手管で王子を虜にしてみせる。

結末

物語の結末を巡り、火花を散らしている。
世界は滅ぼされるべき、恋は甘くあるべき、
お姫様は狡猾であるべき、雪山は閉ざされるべき。
日々物語の結末を自分好みに書き換えるべく、
多くツイリミ愛好家達が頭を悩ませている。

[@1_dark #twremix](#)

荒れ地の魔女

見渡す限りの荒れ地に、絶望する者がおりました。

来る日も来る日も泣いて過ごして、やがて涙は荒れ地を満たして海になりました。

長い年月が過ぎた後、海から命が生まれ、溢れます。

偉大な創造主が泣き虫であったことも、

その哀しみの価値も、何一つ知らないままに。

[@1_dark #twremix](#)

ネックレス

素敵なネックレスを買った。特別価格だ。

これをあの子がつけさえすれば、あの子は僕の。(妄想中)

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「これあげるよ」

「はあ？なんであんたにもらったもんなんか。あ、ちょうどいい」

「わんわん」

「ああっ！」

「似合うわよポチ」

「わんわんわんわん///」

不意に

ふいに子供が手を離れてどこかへ行ってしまうのはどうしてでしょう。
心配させたり、大人を混乱させて喜んでいるわけではないのです。
いつかくる今の続きに、必ずこうして離れていく日がくるのだと、
だからそれまで繋いで欲しいと、思い知らせたいのかもしれない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

瞳の世界

君が瞳を閉じれば世界に夜が来る。
君が涙を流せば世界に雨が降る。
お天気のよくない日々が続いて枯れそうな世界。
そろそろ魔法が必要だ。

[@pirch_yui](#) [#twremix](#)

目覚めた君は恋をする。
古の魔法、美しい世界を育てる魔法。
もっと瞳を開いて世界に朝を。
潤んだ瞳で世界に色を。

見知らぬ鳥

見知らぬ鳥がやって来た。

何か用事があるのかと思ったら、一気に何かを吐き出した。

これは [@1_dark](#) のtwnovel。

ツイッターの青い鳥が、ぴよぴよと囁く。

さあさ、[#twremix](#) しませんか？

お喋り

おしゃべり少女たちが遊びに来た。

ずーっと三人でしゃべりまくっているので、結局一言も口を挟めないまま、

おみやげのクッキーを自分達で食べて帰って行った。

ところで三人の中の一人が僕のこと好きで告白しにきたって話だったと思うんだけど。

結局誰だったの？

[@1_dark #twremix](#)

窓の外

窓の外が騒がしいと思ったら、民衆が溢れている。

国王に直訴したいと立ち上がったのだろう。

我々は話し合いを求める。彼らの求めに従い私はバルコニーに立つと美しくお辞儀をした。

[@1_dark #twremix](#)

そのままの姿勢で私は笑う。これでも私の方が高い位置。

話し合うって、何故かしら。

眠れぬ夜に

眠れない夜に、羊の数を数えていたら、羊でいっぱいになってしまった。

めえーめえー鳴いて、飛び跳ねて、ついにはミュージカルを始めた。

興味深く眺めていたら、ぼんやりすんな台詞忘れたか？って怒鳴られた。

そうだ僕も羊だった。

「羊には3つの名前がある！」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

タイムマシーン

私のタイムマシンは華奢な寝台でできている。

眠りながら、時代を、世界を次々まわり、山海の珍味食べ放題。

食べる、寝る、食べる、寝る。

バキッ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

私のタイムマシンは華奢な寝台でできていた。

もう動かない。ねえ、ここはどこ？

いつものバー

いい加減許してさし上げたら如何です？

バーテンダーはカルアミルクを差し出した。

昨日もいらっしゃいましたよ。

元彼情報をお節介にも教えてくれる。

私は彼を無言で睨みつけた。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

誰のせいだと思ってんのよ。

貴方の作ったカルアミルクはとても甘い。

星の再生

一度落ちて消えた流れ星を、再生して、はるかな夜空に帰している。

流れ星は無限じゃないから、願いを叶え続けたければ帰してやるのが一番なのに、
そんなのお構いなしで次々星を落としていく。

未来の分まで食い尽くされる流れ星。

僕は空の行く末を憂いて、再生を急ぐ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ピアノ

ピアノの音があまりに艶やかだったので、音色は美しい女性になりました。

甘い言葉と艶かしい肢体で彼女は次々と人々を虜にしました。

世界は、彼女を求め争い、多くの人は死にました。

滅び行く世界に最後の和音を響かせて、神様は舞台から去りました。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

永遠の流れ星

昔むかし、永遠の命を得た流れ星がおりました。

ありあまる長い時間を、流れ星は物語を読み耽ることに費やしました。

お気に入りの [#twnovel](#) に足跡を残す流れ星。

見たことがないくらい素晴らしい物語を紡いでおくれ。

素敵な物語には、彼の足跡が残ってる。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

赤い森

血塗れの森に迷い込んだ、狼に姿を変えられた王子を助けるため、斧を持った頭巾の少女が、ワルモノを退治しました。

これがこの真紅の本に書かれている物語。

ところでワルモノとは誰だったのか。

今も森の奥、王子を求めて少女は彷徨っているのです。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

100年後の予定

100年後の予定を、Googleカレンダーに書き込んだ。

メール通知も設定し、これで準備はOK。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

100年後、着信音で目が覚めると私はこっそり外を覗く。

次々とやってくる現代の王子様。

あれは不合格。あれも、あれも。

イケメン以外はこうして私が退治する。

回轉木馬

走る馬を追いかける。

触れたくて、手を伸ばしても届かなくて。

美しい音楽に騙されはしない。

誘惑を振りきり僕は追う。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

逃げているつもりは全然ないのにどうして追いかけるの？

私が回るのは世の理。

少しだけ立ち止まってくれたなら、今度が私が追いかけるのに。

墮ちる

燃え落ちた城で、私が最後に見たものは、彼女とあなた。

二人手をつないで、そして骸となっていた。

涙などでない。燃やしたのは私。

あなたが私を救いに来るのを期待していたのに。

こんなことまでして炙りだしたのは、彼女とあなたの本当の気持ちだけなんてね。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

オオカミが来た

地に落ちた人間の信用は、毎晩、オオカミに喰われてく。

オオカミが来たぞ。彼らは叫ぶ。

オオカミが来たぞ。オオカミ達を養うために。

やがてオオカミは立派に育つ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

餌づけしたオオカミに守られる彼ら。

オオカミの威を借り、迷える子羊達をたぶらかす。

犬と猫

可愛い犬系が迷い込んで来た。

思わずなでなでしていると、猫系がやってきて、そんなのに騙されるなんて子供ねと蔑んだ目で僕を見た。

ひどいですーなんて言う犬系。うわでたぶりっこ、眉を顰める猫系。

どっちにしろ可愛いから三人で仲良く、といたら両方に振られた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

はじめてあったような

はじめて会ったのに、昔から知っているような人がいた。

その人の姿を探しているうち、いつの間にか好きになった。

告白して恋人になって幸せに暮らしていたある日、はじめて会ったのに昔から知っているような

...

[@1_dark #twremix](#)

ところで飯はまだかのう。さっき食べたばかりでしょ。

ねこねこねこ

「金の猫と、銀の猫、どちらがお前の猫じゃ？」

「どっちも違います」

「正直者じゃのう。よし、両方、お前にくれてやろう」

「貴様、俺の可愛いあの子を返さない気か！泥棒猫め！」

「いえ、女神です」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

砕けた世界

砕けた世界で、僕は何を見ただろうか。

汚らわしかった世界の全てが砕けた瞬間、きらきら眩く輝き出した。

世界であったそれはやがて、集まり、新しい世界を創る。

僕が見ていた世界の欠片で出来上がった、僕の知らない世界。

今度の世界はどんなだろうか。

今度こそ、壊さずに済むのだろうか。

[#書き出し](#)

なのに

怪盗なのに、名探偵を好きになってしまった。

同じ世界で生きたくて、自首しようと決意した。

けれど死ぬまで刑務所暮らしになるからと、名探偵に諭され、今では一緒に暮らしている。

仕事仲間と暮らせば休みも同じで遊びに行きやすいと言うけれど、仕事仲間、だっけ？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

来世こそ

来世こそは正々堂々結婚しようと言ったので、女として生まれ変わった。

困難を乗り越え、運命の人と再会すると、相手は男になっていた。

ああようやくと思ったら、「男しか愛せない」と言われた。

正々堂々カモフラージュ結婚をしたけれど、彼の心は私にはいない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

次元を超えて

遠距離恋愛がつらくて、次元の壁を越えるマシンを開発した。

命がけでディスプレイの中に飛び込むと、彼女だ。

しばらくは幸せだったけれど、

一緒にいるとどうも彼女の薄っぺらさが気になってしまう。

薄っぺらい言葉、愛。

もっと中身ある恋愛がしたくて彼女と別れた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

レシピ

甘いお芋を、甘いアンコで包み、
白い団子で包んだら、いきなり団子が出来上がります。
ね、簡単でしょう。
だから、いきなりお客様がきても大丈夫なのです。
いきなりお客様が来てもこれならお出し出来るのです。
だからいきなり団子なのです。
わかりましたね。

[@1_dark #twremix](#)

涙の器

人間が泣けども泣けども海はできませんでした。

人の涙は全て地面が吸い込み隠してしまったのです。

どれだけ泣いたか見えなくされて絶望せずにいられたために、泣くだけ泣いたら人間達は笑いました。

涙を引き受けてくれる誰かのおかげで、人は歩いていけるのです。

[@1_dark #twremix](#)

悪魔の姿

あの子の姿をした悪魔が、心の中にやって来た。

あまりに可愛らしいその姿に、思わず心の扉を開けてしまい、今ではすっかり住み着かれてる。

悪魔が来てから世界がどうにも変わってしまって、居心地悪くて困ってる。

だけど。

追い出せないのは君の魔力のせいだよ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

嘘

嘘をホントにする努力を始めた。

貴方なんて嫌い。大嫌い。

だって鈍感。なかなか告白に気づかなかった。

だっておっちょこちょい。すぐ転ぶ。

あなたって、あなたって。

少しずつ貴方を嫌いになれる。

けれど。なんだか会いたくなっちゃった。

[#書き出し](#)

もしもし私。ねえ、仲直りしてあげたっていいのよ？

貞子さん

貞さんは考えた。どうしよう。

生き残るにはどうすればいいの。生き残るにはどうすれば。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

ってよく考えてみたら私もう死んでた。

ま、でも一応路線は変えてみようかな。

じゃ、可愛い路線でお願いしマース。

「貞子だゾ♡m|||-_|||m」

ツイリミ

「[#twremix](#) へようこそ！

ここではあなたのツイノベが、甘くなったり、滅びたり、密室化したり、続いたり。あなたもツイリミフリー作家のツイノベを、どんどんリミックスしてみませんか。物語の運命は、あなた次第。ゆっくり楽しんでね。」

[@1_dark](#)

空が飛べるようになった。

1mmだけしか浮かべないけれど問題ない。

あの夢が叶う時が来た。

[@1_dark #twremix](#)

「屋敷の周りは新雪。足跡はなし。死亡推定時刻を考えると犯人はこの中にいます」

盗聴器の向こうから名探偵の宣言。

犯人は僕なのにと勝ち誇りながら、自宅で顛末を聞く。

恋泥棒

恋が出来るようになった。

もう少し正確に言うと、心が盗めるようになった。

どんな女の子でも虜にして、1日だけの恋人生活を楽しむ。

けれど彼女は違った。何日経っても側にいる。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

彼女は今では僕の妻。

あの日心を盗まれたのはきっと、僕の方だった。

皆違って皆いい

元気印彼女がやって来て、部屋をめちゃくちゃにしていった。

その後家庭的彼女がやって来て、部屋の片付けをしてくれた。

最後にオシャレ系彼女がやって来て、部屋を美しく模様替えしてくれた。

みんな違ってみんないい。

ってことで怒らないで、4人仲良く付き合わない？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

世界のボタン

空からミサイルが一斉に落ちてきたその時、僕は三日前の事を思い出していた。

「もしミサイルが雨の如く降り注いでも世界は滅びやしない。生殺しの日々が続くのだ。
そうになったならこのボタンを押して欲しい」

[@tensyou99](#) [#twremix](#)

【世界を苦しみから救うボタン】を震える指で僕は。

#世界もう滅ぼしたい協会

「世界が滅亡するそうですね」

「あの噂ですね。我々も困っているのです」

「おや喜んでいてと思ってました」

「我々の権利を奪うなど許しがたい。抗議しておきました」

[@1_dark #twremix](#)

地球の元に手紙が届く。

「滅ぼす権利を奪わないで下さい [#世界もう滅ぼしたい協会](#)」

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) の陰謀に、我々は捜査のメスを入れた。

滅亡の噂で世界を混乱させているのはお前らだな、と。

応対した会長は語る。

それだけ人は地球を愛しているってことじゃないでしょうか。

[@1_dark #twremix](#)

地球への思いを語る会長だが、陰謀無関係とは言わなかった。

地球の姿

後年、地球を訪れた者は、なかなかその実態を解明できないでいた。

矛盾する映像資料や書籍が多数発掘されたためだった。

地球人というのは本当に時間をループする力を持っていたのか。

どうして手の込んだ殺人事件ばかりなのか。

勇者？魔王？

解明は困難を極めている。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

あとのまつり

お姫様の皆様、お疲れ様です。

皆様のおかげで、子供達の夢や希望が守られています。

つきましてはこの後打ち上げを行いたいと思いますので、どうぞふるってご参加ください。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

スイーツを山ほど準備して行われるこの女子会。

王子達からは魔女会と呼ばれ恐れられている。

信じていれば

「白馬に乗った王子様って、本当にいるのかな」

「信じていれば、きっと現れるよ」

「本当？」

「いい子で信じていたならね」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

あの頃の自分を後悔する。

白馬の王子さまなんているわけないのにどうしてあんなことをしてしまったのか。

娘（40才）、未だ独身白馬待ち。

星の贈り物

天使が星を贈ってくれた。

あまりに明るい光だったので、足元さえも照らしてくれた。

明日も頑張っていけそうだと思った。

気まぐれでもいい。

この呟きを、目にして何かを思ってくれた。

星を与えてくれるあなたは、私にとっての天使なんだ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

クリスマスケーキ

睡眠薬入りのケーキを食べて人々が眠りにつく頃サンタクロースの仕事は始まる。
街は24時間営業で難しくなったサンタの仕事。そこで作られたこのケーキ。
人も街も世界の全てを眠らせる。

[@1_dark #twremix](#)

静かな街に響く鈴の音。休むことを許されなかった街へのサンタからの贈り物。

クルスが近づいてくる。おいしい日本酒を持って。
日本酒？いやそれはちょっと合わないよね。
どうしてと聞いたら、ちょっと憧れてたと言った。
それじゃ今度日本酒味を作って貰ったら？と思ったけれど焼酎味が先だよね。

[@ce1039 @1_dark @hyuugahikage #twremix](#)

カフェオレとアイス

彼女はアイスを食べていた。

俺がカフェオレを飲みながらクリスマスプレゼントに悩んでいると、
びしゃ、彼女がアイスをカフェオレに突っ込んだ。

「これが私のプレゼント」

カフェオレフロート？驚いていると、

「唇があいたわけなんです」

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

甘い。

温める

抱きしめた君は思いのほか温かく、どうしていいのかわからなくなる。

温めてあげるはずだった。この小さくて孤独な命に一時の慰めを与えるはずだった。それなのに

。[@pirch_yui #twremix](#)

「だいじょうぶ？どこかいたい？」

温めて貰ったのは僕の方。お返しが出来るまで君の側にいるよ。

サンタの隠れ家

「本当にずっとここに隠れているつもりですか」

「サンタクロースは見つからないことが命じゃからな」

「確かにそこなら見つかりませんが24日、大丈夫ですか？」

「それがその日バイト休めなくて」

「木の葉を隠すなら森の中って言いますけど、ピザの配達はほどほどに」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

忘れ物

恋心を忘れてきてしまった。

神様は意地悪だと思いながら、彼の部屋に戻る。

たとえ離れても、心残りがあつては意味がない。

だから。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

扉を開けると彼は私にかけ寄った。

別により戻そうっていうんじゃないんだから。

ねえ聞いているの？

ねえ。ねえ。

そうね。ごめんなさい。

美しいツリー

魂になってからは、ぼんやりとしか世界が見えない。

待ち合わせしたツリーに向かいたいのに。

どれだけ彷徨ったかな。ここはどこかな。

眩しい光が見える。あれは。

[@pirch_yui @1_dark #twremix](#)

ツリーのとっぺん光る星。待っててくれたの。

縛られた君の魂解いて、二人空へ。

迷彩サンタ

人の気配に目を覚ます。

もしかしてサンタさん？期待しながらうっすら目を開けた。

赤い服、じゃない。僕の枕元には迷彩服の男がいた。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

「泥棒！」「違います」

男の手にはプレゼント。

「まさかサンタ？」「ち、違う！」

「どっち？」「秘密じゃ！」

アンチクリスマス

聖夜という概念を理解してくれない彼と、いつもと同じデートをする。

僕らには関係ないでしょって、その通りだけれどつまらない。

がっかりしていたら、「だけど子供が生まれたらサンタには来て貰おうね」と突然の求婚。

初めてのクリスマスプレゼントが左指に煌く。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

サンタ問題

「サンタさん、まだ出発しなくていいんですか？」

「出発？」

「今日は24日ですよ」

「24日...ああそうじゃったそうじゃった」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「それじゃちょっと行ってくる」

「行ってら、ってサンタさん？」

「毎月24日は老人会じゃな」

サンタさんの高齢化問題は深刻である。

贈り物

お話作りが上手くなるものがないと願いながら眠ったクリスマスイブの翌朝、枕元にあったのは、[#twremix](#) と書かれた紙だった。サンタに問いただすと、特に23時から参加するといいい頭の体操になるぞと親指を立てた。今ではフリー宣言も済ませ23時PC前正座待機している。

[@1_dark](#)

靴下

イブの晩、クリスマス飾り用の靴下が見つからなかったので、袖の下を置いておいた。
すると翌朝、それはなくなり、けれどプレゼントも置いていなかった。
サンタさん酷いって思っていたら、玄関に馬車が横付けされ、王子様が迎えに来た。
サンタの本気を見た気がした。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

瞬足

「すっかり時間かかっちゃった」

サンタさんは僕を睨む。ノロマな僕のせい。

プレゼントはあともう一つ。急がなければ夜が明ける。

[@1_dark #twremix](#)

着いたのは、僕の家？

「お前に」渡された包みの中にはトナカイ用瞬足。

来年も頑張ろうな。

<http://www.syunsoku.jp>

転勤

転勤して初めての12月25日。

でも僕のところにXmasは来ない。

ついてきてと誘った彼女にはとっくの昔に振られてる。

コンビニチキンとビールで乾杯。淋しい。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

ピンポン。扉の向こうに彼女。

離れて気づいたのって。僕の元にもXmasがきた。

アフタークリスマス

「メリークリスマス～！」 「もう終わってるでしょ」

「24日仕事だったしそれに」 「それに？」

「実は本当は今日がクリスマスだ」 「まさか」

「俺らがゆっくり祝いたいから、25日がクリスマスとか嘘言ってるだけで、本当は今日だ」

「赤い悪魔め！」 「ホッホー」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

金の月銀の月

「貴方が落としたのは銀の月ですかそれとも金の月ですか」

「俺が落としたのはその金の月です」

「そうですか、それではあなたにはこの金の月をさし上げましょう。

金ですので料金は一番お高くなりまして、こちらのお値段ですね」

「なんて天文学的な・・・」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

寝て起きたら、全てが幻のように消えていた。

たぶんあれは全部、私の夢だったのだ。

そびえ立つビル群も、突然表れた大軍も、赤い血を流し滅んだ人々も。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

少女はガラクタの山の中、夢みる。

どんなに残酷な夢だとしても、

世界にたった一人きりの恐怖よりはずっといい。

地球へ

「さてと、行くか」サンタは過去に「地球」と呼ばれていた星に行く。
止められなかった滅び。サンタは悔やんでいた。
営業努力が足りなかった。優良顧客だったのに。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

サンタは地球に種を植える。

「人類の種」が育ちやがて地球人が生まれる事を夢見て。

サイン

「月が綺麗ですね」唐突な発言の意味を理解するのに、数秒かった。

「あんたに文学的な趣味があるなんて」

「茶化すなよ。ずっと考えてた」

「少し時間欲しいな」

「だよな。俺、待ってるよ。暗号の場所で」

暗号？愛してるとかのアレじゃないの？

「健闘を祈る！」

[@pirch_yui #twremix](#)

神々の遊び

地球を滅ぼしてから一週間、人々は以前と変わらない生活を送っている。
滅ぼしてもすぐに復活する人々。そうでなくては困る。そうでなくては楽しめない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「あ、私これ好き」「これストレス発散にいいよね」「うん、人間叩き」
それはモグラ叩きに類する神々の遊び。

リア充爆発

クリスマス爆発計画に年賀状なくなってしまう怨念。

春の出会い撲滅キャンペーンに一人花火推進運動。

破壊願望でもG撲滅宣言は採択されずにリア充撲滅系の計画が次々実行される。

つまりこれは。

[@1_dark #twremix](#)

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) は [#リア充爆発しろ機構](#) に類する、と。

女子

「[#世界もう滅ぼしたい協会](#) 会長！パートの怪獣たちが動いてくれません！」

「なんだと!？」 「なんかだるーいって言ってます」

「まさか...！」 バッ「おい、はやくスイーツを差し上げろ」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「ご機嫌直りました」 「全く、いくつになっても女子ってやつは」

じいさんばあさん

「ばあさんや、滅びはまだかのう」

「嫌ですよおじいさん。さっき滅ぼしたばかりじゃないですか」

「そうかのう。なんだか物足りなくてのう」

「それじゃあ、もう一度だけですよ」

ドーン

[@1_dark #twremix](#)

[文頭へ戻る。](#)

暗号

来年の自分から手紙が届いた。

自分のものとしか思えない筆跡で、書いた覚えのない文章が綴られている。

「やむを得ず暗号にした。見事生命の危機を乗り越って欲しい」

何この数字の羅列がレポート用紙5枚分。

僕の中に解ける力があると信じて命がけの暗号解読に挑む。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

森のクマさん

森のクマさんが手紙を配達してくれた。

差出人の名のない手紙は毎日届けられた。

「白い貝殻の小さな耳輪がお似合いで」

ねえクマさん。

私、あの耳輪あの後すぐに失くしたの。

それに私、あの日初めてあの耳輪をつけたのよ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

何も知らず、クマさんは今日も恋文を届ける。

小瓶

海辺を歩いていると、
ガラス瓶に入った手紙が流れ着いているのを発見した。
開けてみると、「世界の取扱説明書」と辿々しい字で記されていた。
子供の悪戯かと思いながらも試してみる。

「瓶の中にかき氷みぞれ味を入れます」

イチゴ味でいいかな。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

空から降る桃色の雪。

・°・(ノ口`・°・°。

忘年会に行きたくない。そこでこの作戦だ。

「いやあ、実は・°・(ノ口`・°・°。でした」

誘ってくれた相手は キョトンとした顔。

・°・(ノ口`・°・°。でさえなければ畜生。迫真の演技で壁を殴る俺。

大切なのは意味より雰囲気だ。

[@1_dark @LOVE_FICTION #twremix](#)

王子様の求婚

大勢の前で突然の求婚。愚かな王子。

ロマンチックくれなきゃ女は愛などあげないのよ。

「人目のないところに行きたいわ」

上目遣いで誘うと王子は真っ赤になった。あらあら何を想像してるやら。

「人目があったら素直になれないじゃない。色々と、ね？」

[@1_dark](#) [@ce1039](#) [#twremix](#)

小さな翼

私の羽は予言する。色を変えて文字を映して。

けれども羽は私の視界に入らない。

或る日貴方は戯れに聞いた。僕らの未来はどうでしょう。

その日を境に会えなくなった。

ねえ、私の羽根の色は何色だった？

どんな未来を私に見たの？

[@pirch_yui](#) [@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

孤独の年賀状

年賀状っていうのはなんだっけ。

ああそうだ。誰かにすべきご挨拶。誰かに。誰か。誰かって何だろう。

世界に一人の僕は、僕に年賀状を書いてみる。

こんにちは。お元気ですか。

きっと返事も僕が書く。

[@1_dark #twremix](#)

年賀状って一体何が楽しいんだろう。こんなに涙が流れてくのに。

春恋い

冬枯れた木々の下では破れた恋が眠ってる。

淡く輝く青い花を咲かせるために、木々達は傷ついた恋心を抱いて、静かにその日を待っている。

また敗れるかもしれないよ。窘めるように鶯は囀る。

けれどそんなの、花咲く悦びに叶うはずもないでしょう。

今年もまた春が来る。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

え？

遠慮しているのかと最初は思った。

けれど、性格なのね。

丁寧に私を扱うあなた。

ねえ、平気よ。迷惑なんかじゃ全然ないわ。

恋愛しましょ。

あなたと。あなたと、したいの。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

え？ 真っ赤な顔で私を見つめるあなた。

やあね。一体何を想像したの？

年越しそば

竜が年末の挨拶に来た。

年越しそば食べる？と聞いたら、お前も俺を追い出したいかと怒りだした。

巳年を楽しみにされているようで切ないのだとか。

空想の世界に住んでいるならいつでも逢えるでしょ、と言うと、

思い出してよね！と何度も振り返りながら去っていった。

[@1_dark #twremix](#)

勇者と姫と竜

どんな方法だっていい。ボクはとにかく姫に会いたい。

[@1_dark #twremix](#)

「魔王が現れた」魔王はボクだ。

姫君はいつもボクを改心させにやってくる。

けれどそれは愛じゃない。

会う度切なさを抱きながらも、ボクは何度も何度だって、
キミのために魔王になる。

[@hyuugahikage](#)

31文字

囚われの姫君大脱走 口...人 残された口は呟く お次は何を閉じ込めよう

[@marinegumi @1_dark #twremix #twnovel #3 1文字の小説](#)

悩める少女は言いました どうか私を連れ去って そして僕は追われる身

[@1_dark #twremix #3 1文字の小説](#)

11月の融解

きらきらの思い出が降り積もる。

滅びた恋の王国にひとり、今も彼女は暮らしてる。

美しい廃墟に積もる思い出は決して融けず、何度も何度も降り積もる。

[#11月の融解](#)

初雪だね。

僕の言葉に珍しく王国から帰還する君。

掌に落ちては溶ける雪。

君は泣く。融けないで。

僕は祈る。全て全て融けますように。

12月の哀歌

空を見上げて君は言う。人は星に願うのだと。
私の手を取り君は言う。だから二人で願おうと。
どうかどうか。

#12月の哀歌

空が千切れたかの様な雪が海に融ける。
まるで空が、星が、願いが、壊れて落ちてきた様で。
あの時、私も海に融けていたなら、
君と信じた未来と共にずっと眠ってられたのに。

あの日、王子様を殺したあの日。
口遊む鎮魂曲で魂を天まで見送ると、雪が降る。
雪の白さが私を責めた。
どうして、どうして、と。

#12月の哀歌

可哀想だと思ったの。
私を愛さぬ王子様が。他の誰より愛しているのは私なのに。
苦しかったの。
私はきっと空気か何かに溺れたのね。
だから、だからよ、と。

人魚姫の本をパタンと閉じた。
こんな話は嘘っぱち。ナイフを構えたその後からずっと私はここで暮らしてる。
ギイ。扉が開いた。また夜が始まる。

#12月の哀歌

王子は私を抱きに来る。
出ない声も歩けぬ足も彼には都合がいいみたい。
好きにされてるその間、目を閉じ私は口遊む。
二度とは帰れぬ海の歌。

冬の邂逅

3番線から電車がでるとひゅんと風が吹く。
見通しの良くなった向いのホームに改札へと向う君を見つけた。
些細なことで喧嘩して、それっきりの君。
最後に会った時はまだ半袖だったのに、今じゃコートにマフラーだね。
ねえそのマフラー、僕が贈ったものじゃない？
僕は、一目散に駆け出した。

[#冬の邂逅](#)

寒さも本番だからとあったかアイテムを探しだす。
コート、高かったんだお気に入り。
手袋、友達とお揃いのお気に入り。
マフラー、これは。
これは嘗てのお気に入り。彼に貰ったプレゼント。
些細な喧嘩をしてそれっきりの。

[#冬の邂逅](#)

巻いてみた。あたたかい。
思い出と邂逅したくて、私はあの駅へ向う。

去年君と見上げたツリーを今年は一人見上げる。
去年の冬だけお付き合いした君との思い出が、街中のあちこちから僕に手を振り今年はまだ宝探しだ。
僕の隣に君はいない。どこにもいない。天使となって君は何処かへ飛んでった。
けれども僕は忘れないよ。
冬が来る度、偶然街角で会いましょう。

[#冬の邂逅](#)

12月の逃亡

崩れそうな城を駆け抜けた。

邪魔にしかならない繻子の靴は脱ぎ捨て、塔の頂上へと螺旋階段を駆け上がる。

走る。紫色の煙。貴方だ。

#12月の逃亡

「待たせたなお姫さん」

紫煙くゆらせ佇む貴方に、「遅いわ」と抱きついた。

「いいのか」「今更よ」

私は彼の、魔王の手を取る。

さあ、私を拐かすがいい。

魔女に許された娯楽は煙草だけ。

力を奪われこの座敷牢で金魚の様に飼われやがては朽ちる。

ふうっと吐き出した煙が天窓へと吸い込まれた。

#12月の逃亡

窓を出た煙は翼あるものへと形を変え、やがて雪深い森の奥へと辿り着く。

次々と飛んでくる鳥を、蝶を、森の主は慈しみ、懐かしみ、優しく撫でた。

今を逃せばチャンスは一年後。

私は覚悟を決めた。あの人についていく。

#12月の逃亡

鈴の音が聞こえる。彼がやって来たのだ。

「おや？」私に気づく。連れてって。

「泥棒さんとは違うのですが」お願い。

「贈り物を多めに置いていきましょう」

天使の飾りを拾いあげるとサンタは胸ポケットにしまった。

知ってる。貴方が恋をしたがってる。

知ってる。けれどそれは私の望む恋とは違うものなのだ。

知っているの。貴方が求めているのは、24日の孤独を埋めてくれる人。

だから逃げる。貴方になんか捕まらない。

本当の恋ができる時まで、墮落したその牙からいつまでだって逃げ続ける。

#12月の逃亡

少女とレシピ

そもそも少女というものの自体が材料ですので、
少女自体が何であるかは定まりません。

少女とは過程。

結果によって初めて少女の有り様が定まるのです。

まずは貴方のお望みを。ほう。なかなかにご趣味がいい。

「届かない空」が必要ですね。

それではしばし、お待ち下さい。

[#twnovel](#) [#少女とレシピ](#)

少女ロボットは動かない。

足りない物は解ってる。多分きっと。

けれどボクには難しすぎて。

[#twnovel](#)

キスで目覚めた少女は親友と見つめ合った。

足りない何かは王子様。

少女は誰しもお姫様。

研究は大成功。

なのに何だろう。この胸の違和感。

この問題はどのようにして解けばいい。

[#少女とレシピ](#)

違和感の殺し方

君はいつでも僕に言った。

ダメだよ。そうして僕を引き止めてさ。

平々凡々。

君のお陰で詰らない僕。

僕は僕を好きになりたい。

だから黙ってくれないか。僕は無視する。そうして君も話さなくなった。

大胆不敵。

君のいない素敵はずの僕をどうして好きになれずにいるんだろう。

[#違和感の殺し方](#) [#黙殺](#)